



東海道名所圖會 三

ル 3  
376  
3





藤原師長公配所

櫻田

笠寺

星寄

○鳴海

鳴海上聖

鳴海寺

鳴海神社

芭蕉翁千鳥家

同筑文庫

衣比浦

音聞山

名産有松絞

今川義元塚

煨川

○沈鯉鮒

知立神社

八橋古蹟

橋雲寺

無量寺

沈鯉鮒馬市

矢剱宿

修瑠璃燈壇

矢剱川

狹投神社

○岡寄

大樹寺

大屋川

矢橋橋

二村山

衣乃里

○藤川

小豆阪

宮地山

法藏寺

○赤阪

山中里

本坂敷

二見道

御津神社

○御油

山本勘次故居

砥鹿神社

○吉田

免足神社

牛頭天王

放花炮

煙巖山

豊川

六月例祭式

三ノ巻

鳳來寺

本堂 三層塔 鐘樓 天神祠

鎮守権現

護法神

常行堂

天神祠

鐘樓

一狂子

八幡宮

伊勢兩宮

辨財天

天神祠

鐘樓

名勝題目石

二王子

荒神祠

大師堂

天神祠

鐘樓

名勝題目石

八王子

妙法龍

奥院

天神祠

鐘樓

名勝題目石

八王子

妙法龍

奥院

天神祠

鐘樓

名勝題目石

八王子

妙法龍

奥院

天神祠

鐘樓

名勝題目石

八王子

妙法龍

奥院

天神祠

鐘樓

名勝題目石

八王子

妙法龍

奥院

天神祠

鐘樓

名勝題目石

八王子

妙法龍

奥院

天神祠

鐘樓

名勝題目石

八王子

妙法龍

奥院

天神祠

鐘樓

名勝題目石

八王子

妙法龍

奥院

天神祠

鐘樓

名勝題目石

八王子

妙法龍

奥院

天神祠

鐘樓

名勝題目石

八王子

妙法龍

奥院

天神祠

鐘樓

名勝題目石

八王子

妙法龍

奥院

天神祠

鐘樓

名勝題目石

八王子

妙法龍

奥院

天神祠

鐘樓

名勝題目石

八王子

妙法龍

奥院

天神祠

鐘樓

名勝題目石

八王子

妙法龍

奥院

天神祠

鐘樓

名勝題目石

八王子

妙法龍

奥院

天神祠

鐘樓

名勝題目石

八王子

妙法龍

奥院



宮驛  
 漢多居

東海道名所圖會卷之二目錄 終

頭陀寺  
 京江戶行徑同里  
 熊野墓  
 朝顔墓  
 今之浦  
 熊野祠  
 腹川青川

植松原  
 天竜川  
 中泉  
 見附  
 袋井  
 志呂波磯

蒲神明  
 沈田者  
 八幡宮  
 三香登橋  
 妙星寺

茅場  
 熊野古蹟  
 櫻池  
 金札鶴  
 名産花菖

三ノ武



寺

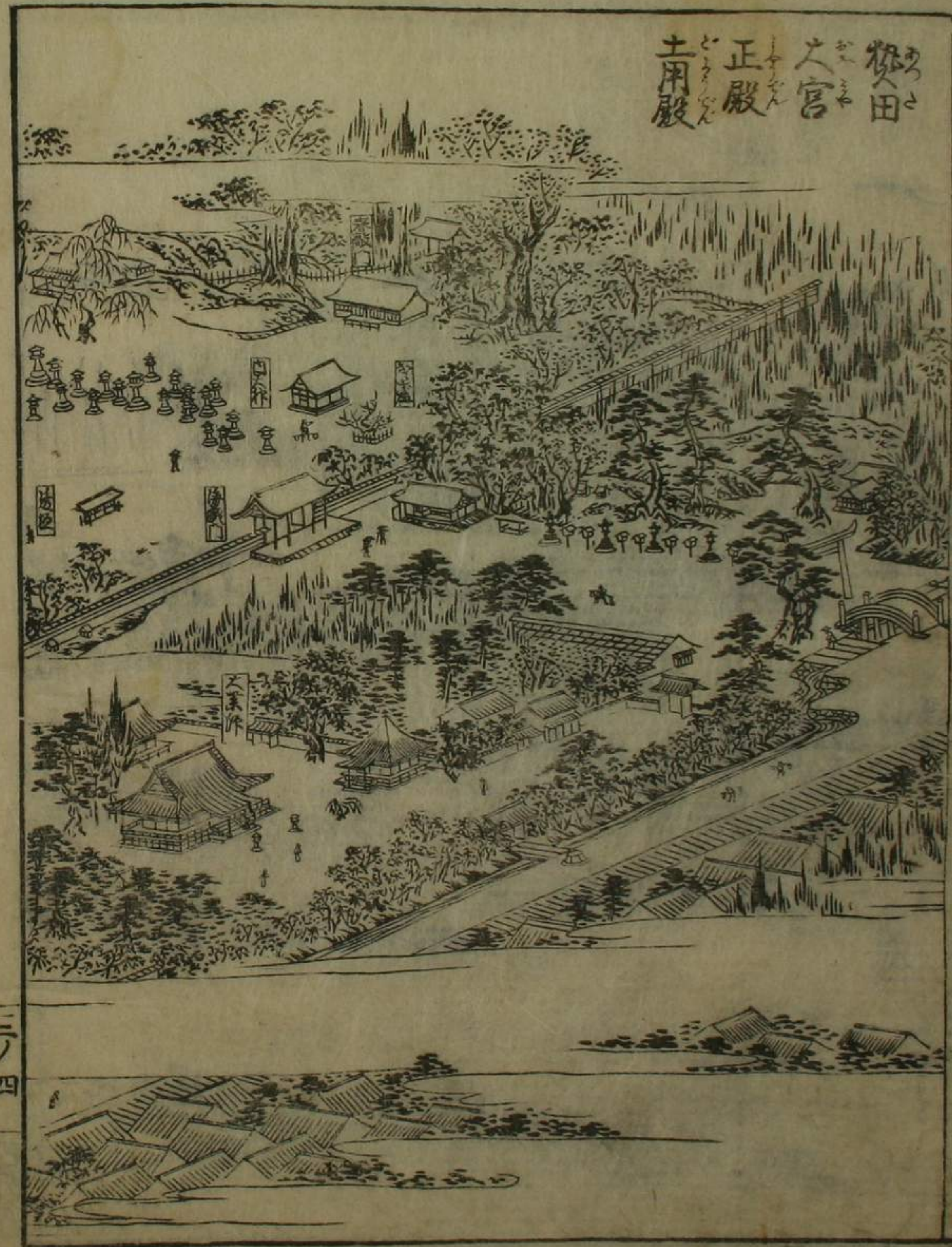
大

ヒクチ

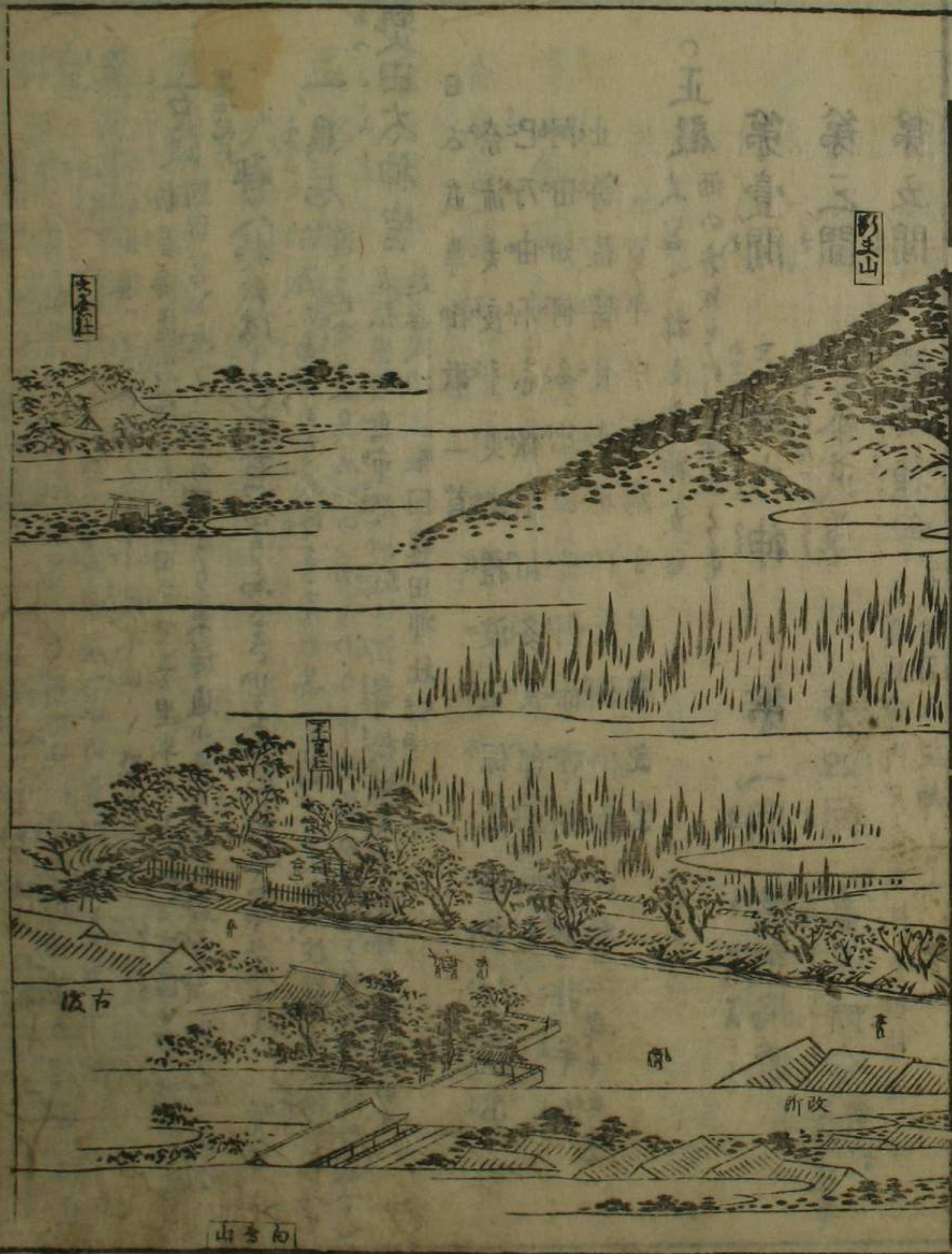


御新  
八劍宮  
末社  
持社

三ノ三



正殿  
 大宮  
 南殿  
 櫻田



三ノ五

張宮

張宮の畧記... 熱田宮と云く宮の懸より東海道に至る左の古宮... 古渡 熱田宮と云く宮の懸より東海道に至る左の古宮... 都人往來は... 一鳥居 古渡の南より八境を居の其一高廿五尺柱の圓を又檜とて...

熱田大神宮

延喜式神名帳曰熱田神社大... 日本武尊御歌二首... 止阿由乃美良平美心禮波止保志比多加知尔

- 正殿 大宮と稱も祭神五座... 第一間 天照大神... 第二間 素盞烏尊... 第三間 日本武尊... 第四間 宮簀媛命... 第五間 建稻種命... 大宮司の祖神あり

土用殿

正殿の東北方あり寶殿と... 井樓組といふ

神躰草薙寶劔 日本紀曰素盞烏尊乃以蛇韓... 不少欽故裂尾而看即別有劔焉名為草薙

同紀曰景行天皇五十年秋八月日本武尊... 所佩草薙橫刀是今在尾張國年魚市郡熱田

八劔神社

大宮の南を町許西方南向小鎮坐祭神十座... 東の方向より座と云く八神躰神社也

高藏神社

大宮より北の方五町許畑村より神名帳云高座... 祭神仲哀天皇

日破神社

所前町あり神名帳云日割御子神社大... 祭神二座日奉武尊宮簀媛命

氷上神社

祭神正哉吾勝尊... 傳馬町あり神名帳云上知我麻神社

源若吏神社

大宮西面鎮皇門の少あり神名帳云下知我麻神社... 祭神眞敷刀媛命

紀若吏神社

鎮皇門の内あり神名帳云孫若御子神社... 祭神瓊杵尊

孫若神社

祭神瓊杵尊



式内

寶田神社

同所あり神名帳云御田神社  
祭神保食命 推産靈命

南新宮

大福田社の少あり祭神天照太神 素盞烏尊  
側小飯靈神五命あり

式内

青衾神社

南面石高橋北東あり神名帳云青衾神社  
社の後より名泉あり

鈴御前社

傳馬町あり  
祭神天細女命

末社

右八百萬神祠。縮若祠。王若祠。赫祠。後園祠。楠所あり祠。  
乙子祠。今宮。已上大宮の細の方あり

左八百萬神祠。二名新宮。賀茂祠。龍田祠。内天神祠。已上の  
大宮の東の方あり

一之御若祠。土神祠。山神祠。自神祠。金神祠。龍神祠。  
傍水祠。所井祠。已上の大宮の後あり

姉子祠。今若祠。水向祠。素盞烏祠。日長祠。已上の海藏門  
の外神幸道あり

山王祠。姉子祠。今若祠。水向祠。素盞烏祠。日長祠。已上の  
海藏門の外東側あり

外天神祠。德皇門の外あり。白衾祠。新氷上祠。天岩戸事相の  
大宮の神之下新あり。松姫祠。布曝女町あり

其外末社所くふ多し。畧す

纂集

駒や老くまみくひん子早振多日あつた此社の下法 泰議雅経

十六夜日記

廿日尾張國おのりつむまるとりよにぬるれあつた

宮へまのりて祝とりのてくま書は多くた

光の記り

祈るたよあむとくとつ海とつとく塔も林の傍に ち佛

尾張の國勢田のまのりつね神垣あつらうけむるまのりて拜と

なるふ本立や一ゆりき森の本此乃より名ひけましくさつりて

風ふ礼れつとつからたよふれく神さひつらうあそふさむむれ

救も志く本末まぬるさ徳者のほとむるやふんくさか一白と物ら

書ひまに志のまりゆく愛もかすく空の成人の云い言素盞烏此

尊を初て出雲の國小宮倦り有たり八雲たつとつる大和言也と

是よりそはままれる其後景行天皇貴神代まのみのみさふあつたれ

のりつり又云い宮本神の茶をさとりなる神劔景行の御子

日本武尊と夷とたのりけく帰りの附勢田小宮あり結ふとと美

一條院代神時大江正平とつ侍士ありたり長保の末ふ高て當國はたかく

つりたりなるふ大般若とまふく此宮をて依表とさげつりなる

ヒグチ

願文に吾願まそふみちぬ任限又ちたり古々(帰らんとする)の  
しまひくぢるるべし書つるも我をれよあはれほしく安われ

古語拾遺云草薙神劍者尤是天璽自日本武尊

出境神物靈驗以此可觀然則奉幣之日可同  
元致敬而久代闕此今在尾張國所遺一也  
東鑑曰建久元是即契田稅部所掌之神是也  
神祖神殊被致齊令奉幣熱田社當社依為外戚  
神皇正統紀云中心之崇敬云

日本武尊と信濃より尾張小出の國小宮貴媛と云女を尾張の  
稻種宿禰妹は女をとりて淹留せむし一あひこみ十菅山小  
荒神ありと安(米)並は劍とは宮貴媛乃衆ふそ先く徒よりて  
まま山神化して小蛇となりて所道小横たれり尊又まてさゆひ一  
山神毒氣と吐るる小蛇をえさるるをさるる伊勢よりつりぬ小蛇

野と云ふ所て所病となりて一々みられば武彦命とて天皇小  
奉れよと奏して終ふれぬ所年二十なり天皇さよ一して  
悲しこのふ事限り群々百寮小おほせて伊勢國熊鷹登小ねさ  
なられし小白鳥となりて大倭國に於て彈琴原小留れり其小  
又陵と傳ふられぬ又飛ぐら肉の古市にさまる其小陵と定られ  
しうど又飛く天小登りぬ依る三の陵ありぬの草薙の劍は宮貴  
媛あが先なり尾張小宮まりゆ  
足利義教公富士見下向の時釋堯孝紀  
勢田の宮乃神前小まうて所道まがら所祈りるる侍りさむ  
日本武尊東夷征伐れぬ小あひのさうひ小勢さゆひ一耐て所道  
伊勢大御宮小して大和郡令に備りりゆひ一小令れらげゆひ一  
志劍もは神殿小止らせおろしきひらやいと申こころを神明  
鎮護國家れちうひもそのゆり一くおほえ侍り一  
るみちれりあつたれは程のゆきと

あつま望の系業を承りて秋の末よりて養代の末よりて  
天智天皇の御宇故有る皇都遷りたる十九年迄  
元平小再びもと所遷座の其砌の勅使例祭小立りて官幣を奉らせ  
乃ち事其餘風今あり中古奉幣使急り乃ち忌部廣儀ありて嘆て古語拾  
遺小書より先社頭の歳多る幸の八境小朱れ居大宮八叙神社源をま乃  
社と初め括社末社れ致く石高橋下馬のち南面の門を海蔵門といひあり  
神幸道といふ門の内より不實梅肉の天神祠あり里表より首座の玄宗皇帝四百  
餘州と治せは日本を取んとて計ゆふと當社の御神志る一ありて仮揚貴地  
と現れ世と乱れゆひを日本とさる幸叶の貴妃の馬嵬が京より高力士  
が為小空一くみせらるる言別れとあり一方士楊通幽といふ者四方つる  
して魂魄と尋られ日本を茶菜山小むりまはるる當社小乃本あり

一といふ則は因天神と揚貴地は靈狐身とをいふ事古く世人は臆るを  
社説の傳え傳は然れと仙傳拾遺と引く曉風集もいふ事と載り  
又東海瓊華集も秦は徐市始皇の詔と奉て不灰の茶菜求んて日本へ渡り  
熱田神祠あり茶菜宮と記一壹和信正熱田は平綱福と聞て詔と奉て  
維摩會の講師と成惟蓮沙門亡母骨と高野山小藏せんを東國より登りて  
神祠小立りて神人灰骨の汚穢と忌て宿昔の漸門外小草度は其夜神宮小  
は言ありて神勅小從ひ惟蓮と珍饗一々これ至孝と神明の賞にありて又新  
羅國の沙門道行の草薙は寶劍の靈威を聞て神啟小入續經一百日一為く  
竊小寶劍を盜取り僧伽梨小褻と摺持して筑紫小至り奉國小歸る時  
忽小海月暴起して湧り漂ひ去る事小公將を俄に黒雲一帯して劍を奪つて  
元の如く神祠小藏む又治承の如く大政大臣原師長公平相國は存ふは  
さきさき一のり時當宮小信一琵琶小彈一ありて明神感應ありて寶殿  
震動あり一奉平家物若も載りてありて靈威感應奉て有る之

三ノ九





日

正月十一日  
踏歌神事



浪花春泉齋画

三十一

妻田宮年中祭事

○正月元旦丑剋

大宮 八劔宮

大宮司奉幣

○同日朝

内院供侍

八劔宮小下先て大宮小至る内院外院の供侍毎事ゆゑのや  
二月神年祭十一月新嘗祭は三祭の大宮より下りて八劔宮供侍  
供侍初進の中い喜樂あり祝詞祝詞有て祓女神樂孤奏は喜樂祝詞神樂  
毎事定むる事と右終て内外の儀あり社中一統小出仕これの大宮小下りて

○同日未剋

外院供侍

八劔宮より下りて大宮小至り終て同日神事故実の  
禊式多し畧之

○同日晚

上千竈神社小祈あり

二日晩  
八劔宮の行ひ

三日晩  
松崎宮の行ひ

○四日晩

日割宮の行ひ

五日晩  
南新宮の行ひ

これ八劔宮の行ひと云其儀法  
男女の雜形と梅(濼)状など

○二日朝

外院供侍

大宮司奉幣の  
持し先酒飯と傳へ祝詞あり

○五日朝

外院供侍

大宮司奉幣の儀あり初市の遺風あり寅の辨より社中を心の事  
所福進より群衆を祝の種々の儀と喜樂を伴ふ事

○同日晚

大福田宮

陪從十人出て十一日踏歌の禊あり十日まで毎夕あり

○七日朝

外院供侍

大宮司奉幣の儀あり合水の儀あり前年正月十二日躰小水と  
入て堅く封ト大宮正殿の下小埋と並く今に躰小水持来りか本  
あて水の躰小水封りあり

今年の豊凶は計りあり

○十一日朝

踏歌神事

大福田社より始て大宮 八劔宮 又大福田社より  
終りて社々倉藏魂の儀あり

神事

人十二人高巾子より人笛を人陪を人おのり  
吹吹神頭を竹川に殿座みとり小笏拍子吹合を人舞人舞技と  
持つ吹吹翁あり大宮司出仕者樂あり

○十二日

外院供侍

大宮司出仕者樂あり  
至る大宮司出仕者樂あり

○十四日

歩射

六人の射子角的の射子三子はく二十六布也

○十五日朝

外院供侍

海蔵門の前より  
小豆粥

○同日朝

歩射

六人の射子丸の大的と射子大宮司祝師三老等出仕より  
規式射を射場海蔵門より右掲きての向より

○十九日

兩宮歩射會

社中會合して明年の神役を定め飲酒の礼と  
ま川歩射の神役を定め其後自給の祭役を定め

○廿二日

歩射

歩射といふを他法故実あり

○二月初巳午未日

行年祭

初巳日夜亥剋大宮大供所た右小條と明て棚と飾り東西  
大小神紙と祭の供所洞進後編あり

○同午日未剋

高藏宮 日割宮 大福田宮 氷上宮 源之末神

其外諸社供侍 翌日撤之

○同夜酉剋

八劔宮大供侍

翌日撤之

○同日朝

八劔宮大供侍

翌日撤之





八月八日  
 熱田鎮皇門  
 樓上神幸之  
 祭式









ま本  
古今六帖

風のきふおちあつてこれてワレもふう様あめの里に衣うつて  
伊勢大浦  
あつまぬの林芝の里に初秋の長夜夜をくつり明きあつて  
射恒

海にれく鴨の空のくふ白

松風里

名所大なる

松風の里にむれわの海を渡るを思ふ心他をまれ 定家

呼續彦

年六月十二日相州小田原陣中お放て堀尾金助討死せし返極の者よけ  
呼續彦 義断橋とつりあり又戴籍橋とも書れ 欄干は路あり天正十八

三河川とつりあり又戴籍橋とも書れ 欄干は路あり天正十八  
新格送 呼海くさるるもちり立つて友より後の涙ふ鳴り 巖上上人

愛知河

あち 愛知河 ち多のうも俱小宮よりあるのみ

わのち河にさふらじかぬ井浦小瀬く舟を沖まらるのみ 徳人多し

藤原師長公配所

藤原師長公配所 愛知郡井戸田村旧蹟にさふ龜井山龍泉寺といふ  
平隆盛のちよた遷せられし西洗法師の子加賀寺師高瀬宮にりて井戸田  
流されし國の役人小胡麻の郡司維季ふ作て討せしは平隆盛の弟といふ

平家物語云

大政大臣師長の司公停く東の方へ流されぬ去保元より又悪を府後の

縁座小よつて兄弟四人流罪せられぬ所見右大将兼長師長在中將隆長

範長禪師二人も流洛依待不て配所は終小失ぬ又び大長土佐畑中

九還秋を送り速長寛二年八月小召還されて奉位復一次の年

正二位より仁安元年十月小前中納言より權大納言小上のち折弟大納言

不明なれ首の外せ加らぬ大納言小成の事は是迄又前中納言より權

大納言小上のち後山階大臣射守公治治大納言隆國戸外にれ初さる

管弦の通小海才勝坐されば次第昇進滞らば大政大臣まで窮させ

由ひて又いなる罪の報ゆき流れぬん保元の昔の南海土佐遷され

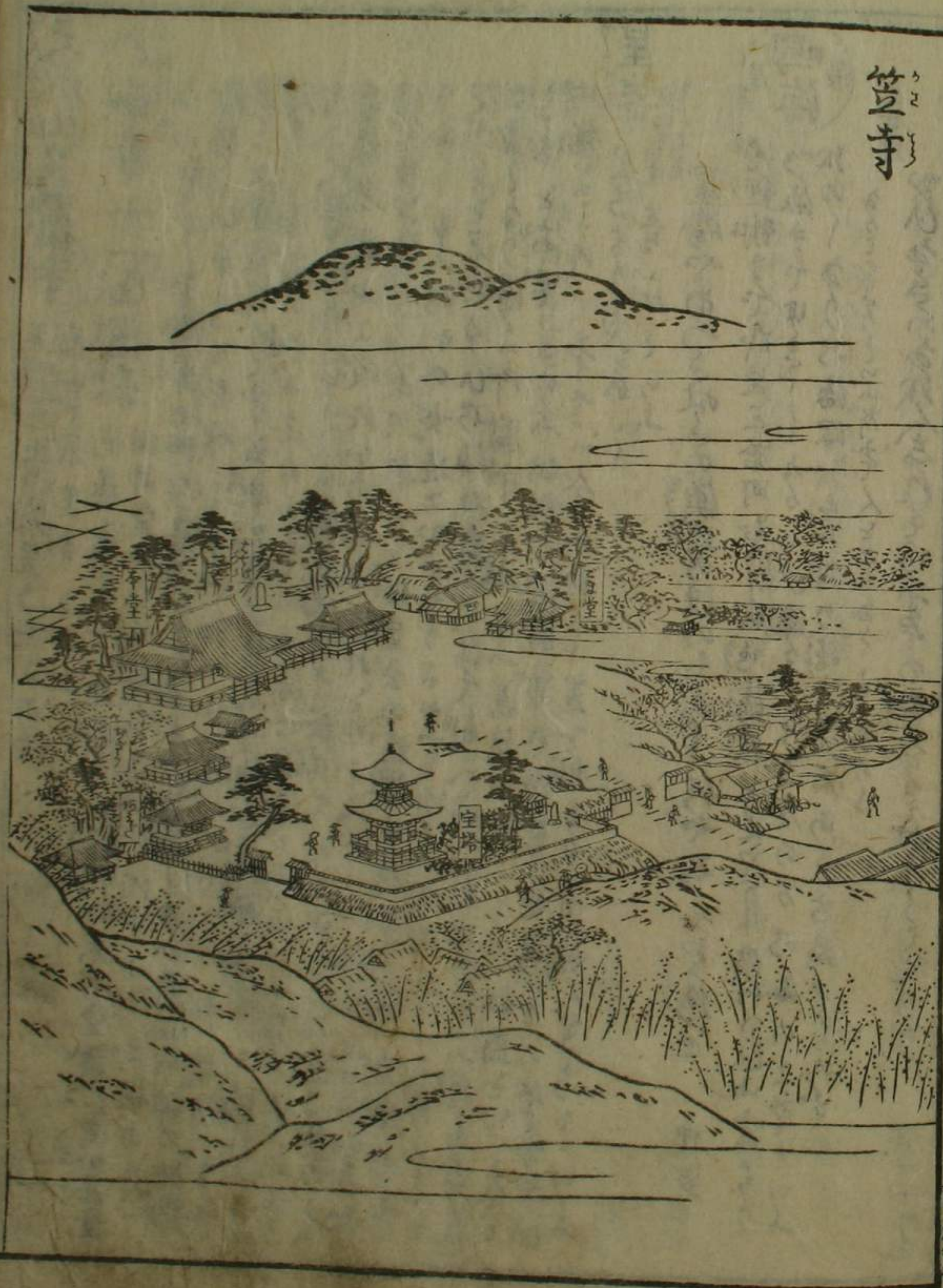
治承け今の又東国尾張國を名奉末罷りて配小月を見んといふ事

知ある際の人預事事さかた敢事さかた彼唐太子は賓客白樂天得

陽代江のやとり小排徊々ん其いおしをさかた海濱夕路るる小遠見して

常の朗月と空に浦風小唄さ琵琶と弾和宮詠とて空閑とて小月日を送りぬり

笠寺



或時為園券三の宮然田明神小春訪めて其後神明法樂代為小琵琶彈朗  
 詠一のふ其所本末無智の境なれ情なれる者あり邑老村女漢人雙  
 頭な低れ耳と聳とつとも更清濁と分て呂律と如事ありされも胡巴  
 琴を彈せり魚鱗躍進虞公歌と發せり梁塵動揺く物れ妙と窮る  
 時より自然小感と催を理るれを諸人身の毛豎く函座奇異のさひとる  
 淵深更ふ及今々護香調の肉あり花芬馥の氣氣含こ流泉れ曲の間も  
 月清明の光夜争ふ願ひ今生世俗文字の業狂言結語の謬なりて  
 とつ朗詠として秘曲と彈ぬひつを神明感應小堪むて寶殿入ふ  
 震動も平家の惡乃ありせむ今瑞相と争ねむつとやそく大屋  
 感涙とぞ流されたる

櫻田

万葉

六帖

東海道宮とつり明海までゆるふ山崎村  
 戸部村あり其少なありと櫻村とつり

桜田入田鶴つりつるあつこつとむふとつりつる

山風のそよぶつるつるつる田の苗代ありと花ふせつはく

高市連

黒人

光明寺

入道

天林山笠覆寺

尾州星奇村にあり

本尊十一面観音

用基若光上人作長六尺境内に兼師堂護広堂地蔵堂

寺記云 高山むく 聖武帝の所宇若光上人兼本感得... 聖武帝の所宇若光上人兼本感得... 聖武帝の所宇若光上人兼本感得...

星奇

星奇寺はとつと

星奇やあつとつこの漢史のはのもち... 仲実

鳴海

鳴海はとつとつこの漢史のはのもち... 増基法師

鳴海はとつとつこの漢史のはのもち... 増基法師

新古

旧

債拾

玉葉

新法拾

新法拾

鳴海上聖

又鳴海聖も

ま本

伺花

鳴海寺

今廢して

後古

鳴海寺のて

さくらやうり... 正三位秀能

うらの日も... 通光

まらうて... 俊頼

よのみの... 真昭法師

よのみの... 大徳成朝臣

よのみの... 宗祐法師

まらうて... 後藤成胤

まらうて... 宗經

まらうて... 橋本仲於

まらうて... 大江廣房

まらうて... 藤原光俊

鳴海神社

尾州

子名の家

本田道權の  
和舟の達人  
みして家系  
と著るるの  
出陣されし  
尾州鳴海の  
磯辺にこれ  
一対園の  
あはれぬの  
下志に軍勢  
みか跡跡に  
其時道權  
古きと陰を

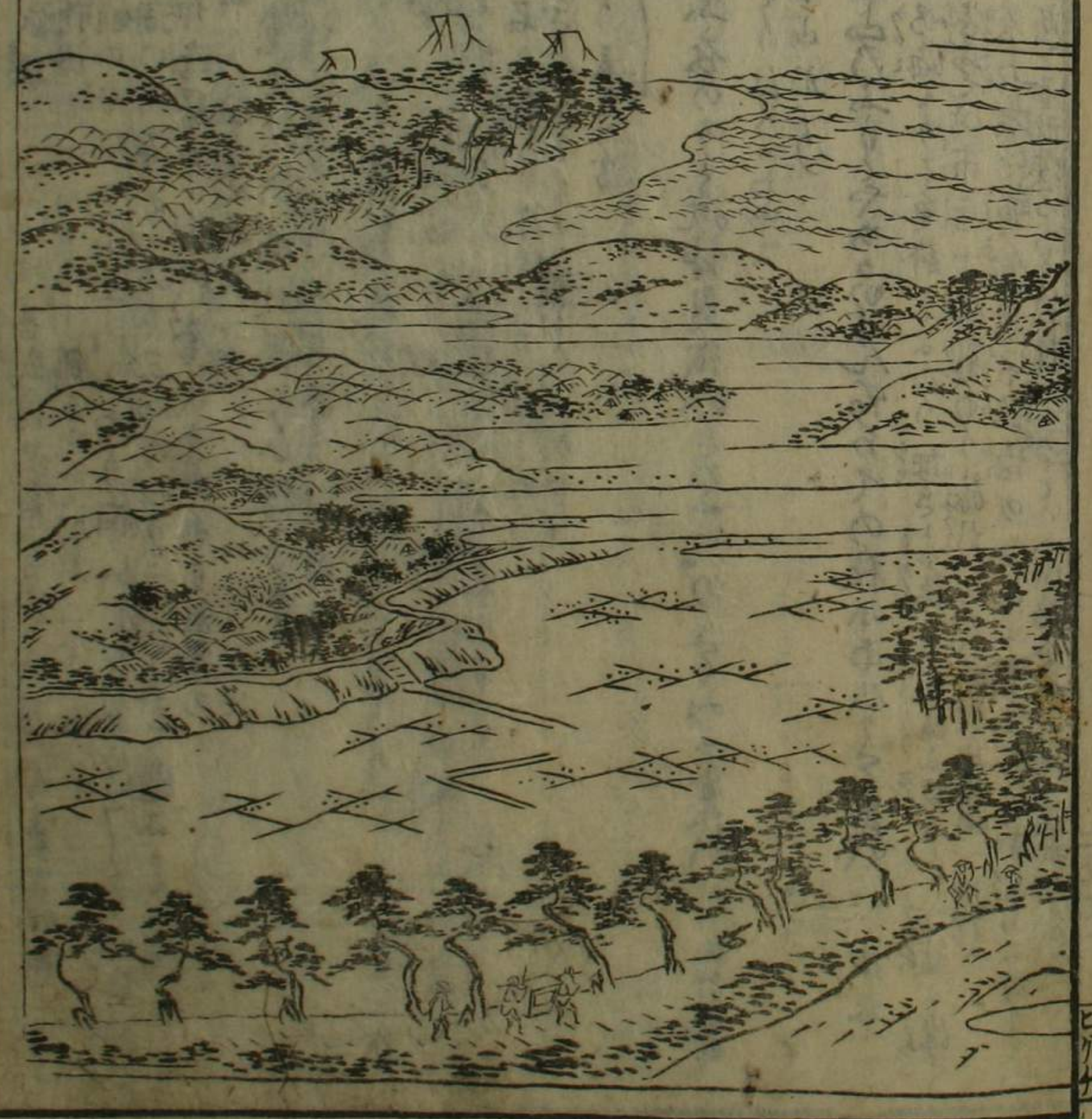


遠く成

とく鳴海の  
溪子名

お舟の  
みちいさは

あはれ満軍ふ  
さし子名  
岸の遠を  
字多し  
と磯辺に  
たる  
お舟の  
お道の  
大將と  
芭蕉翁の  
野宿の  
ちりりの  
はちりり  
あつりと



鳴海神社 鳴海驛小あり延喜式内祭神日本武尊今東宮明神と稱す  
子名塚 芭蕉翁の句碑心山王山あり南の大洋歌あり南勢朝熊  
汎系之地 神高野中子代倉氏小蘆孫自画賛の  
墨蹟と家藏と其文小云  
徳覺の里松風此里にひはさきて  
夜明くく切さちを拵と此夜日

後明くく切さちを拵と此夜日

衣の浦 波あふ衣のうへに神貝取みさる風のくみそふ  
名寄 西行法師  
衣の浦 鳴海より辰己の方  
古跡ありあつたれとくく拵と近年まゝあり  
鶯鷲のふと石小鶴と近年まゝあり  
一他は新持し又鶯鷲より譲られし後文庫も家藏と凡は發句と  
石小鶴と石小鶴と近年まゝあり

寺岡山 鳴海より山あり  
ま本 寺岡の山ありやちのらんりての杜あひくそふ  
祐奉  
名産有松絞 鳴海より里新東あり細き糸多と風脈と絞くく紅藍は海く  
今川義元塚 有松村と鳴海村の路樹の松ありき西村鳴海山ありは  
所と形狭るありは桶狭るといひ地今川上総義元塚死の所

古樹は下お標あり今川上総義元塚死の所と標を明和八年十二月代合  
氏の建つ所とありは古墳多し又若江村の山中ふ人塚といふあり  
あれも今川合戦の時  
戦死の塚といふか  
信長記大意

信長記大意  
頃々永祿三年五月駿州の太守今川上総源義元大軍と催し尾州  
淺洲の城主織田信長と攻滅し直上洛あるなり頻ふ風雲ありし  
信長の江州に佐々木義秀ふ二子三百騎の援兵乞て所々此石小軍將取

こゝて今川の上洛を遮り中洛鳴海に兩城を山只馬取弘家同半内弘高取  
至ふ公智して今川(肉通)て故と又安寺の若き今川義季に八千此  
軍を添添てあれと拒む早今川の先鋒の遠州井谷城主井伊信濃直教直  
小三遠の境に至る五月十二日大將義元四方総騎軍兵引率して駿府に立  
同十六日沈埋榎小陣より信長軍將依向天守山田原より彼防て丸根  
丸根と持の多む内松平若四郎正親高力新九郎直重負て滅其外大勢  
討れふり同十九日丸根丸根と攻む依久向法洲へ援兵と信長將義元  
鳴海の近々桶狭野と三所陣張り斯く丸根城今川勢を圍むて信長將義元

まきより一若かりたる折義信長の諸士と聚て酒宴して居りし一早くま  
れと殺りしをり矢原て何の詮りあるに馳向く義元と其の合戦を  
遂散軍門は晒さるるものごとく十九日午は舟おきまゝ熱田の方へ馬に  
まゝ丸根嶽へさるるゆゑ不雌雄に交せんと思はるる尾州に軍勢休むる迄々  
純来り熱田の旗を口あて返付り信長の熱田明神(彦)一武弁肥後入道  
夕菴とて願書に書せ神前にて精上る其時明神は陣を物具の音頻ふ  
圓公に信長信作膳ふ銘し今日の軍味方の勝利疑あり明神の加護  
ありて諸軍と下知せられりまゝり故味方は先陣申し舟に合戦始り矢花  
とちして攻めし信長は先陣に集りし秋田房を討れり酒の舟小至て  
尾州方若室長門も同率合ふれり今川の兵八百三十人討らるるものと  
終ふも守り討れりまゝりゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑ  
巻以義元へのゆゑ丸根警津は敵城に攻めゆゑ信長の軍將あまに討られり  
首途より一悦び桶狭間の少るる合戦にゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑ

せられり信長ゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑ  
勝三郎信輝林佐渡守秀純毛利新助秀詮柴田権六勝家を申しゆゑ  
故の大勢は味方の小勢ゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑ  
寺は東に閑道は怪く若昭寺の若乃近きあり山谷小到り夜討のちあて  
馬の唐笠結せ士卒に胃と着る白布のゆゑ一様小旗をゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑ  
向は進と合し合を定り夜小入り我々の本陣に相寄らるる其折義  
元立顯小隊を扱者ゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑ  
居るる如縁波とてゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑ  
利勝本下雅樂助嘉季中川金右衛門秀胤毛利河内守秀頼同新助秀詮  
佐久間五郎波盛をゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑ  
山とゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑ  
陣小入り從横小助あし大將とてゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑ  
今川勢孤引包する体ゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑ



因云  
 近奉  
 寛政七乙の  
 辰のつよ  
 大坂寄町と  
 りん所小  
 ま坪のりの  
 あつーが  
 病身ゆ  
 涙世あつや  
 困窮せう  
 のつと十  
 の娘もけん  
 の病つー  
 衣と度  
 様かか  
 父母を安  
 ましひ  
 け路十五  
 市上園小  
 白根社  
 所褒天  
 賜こ々々

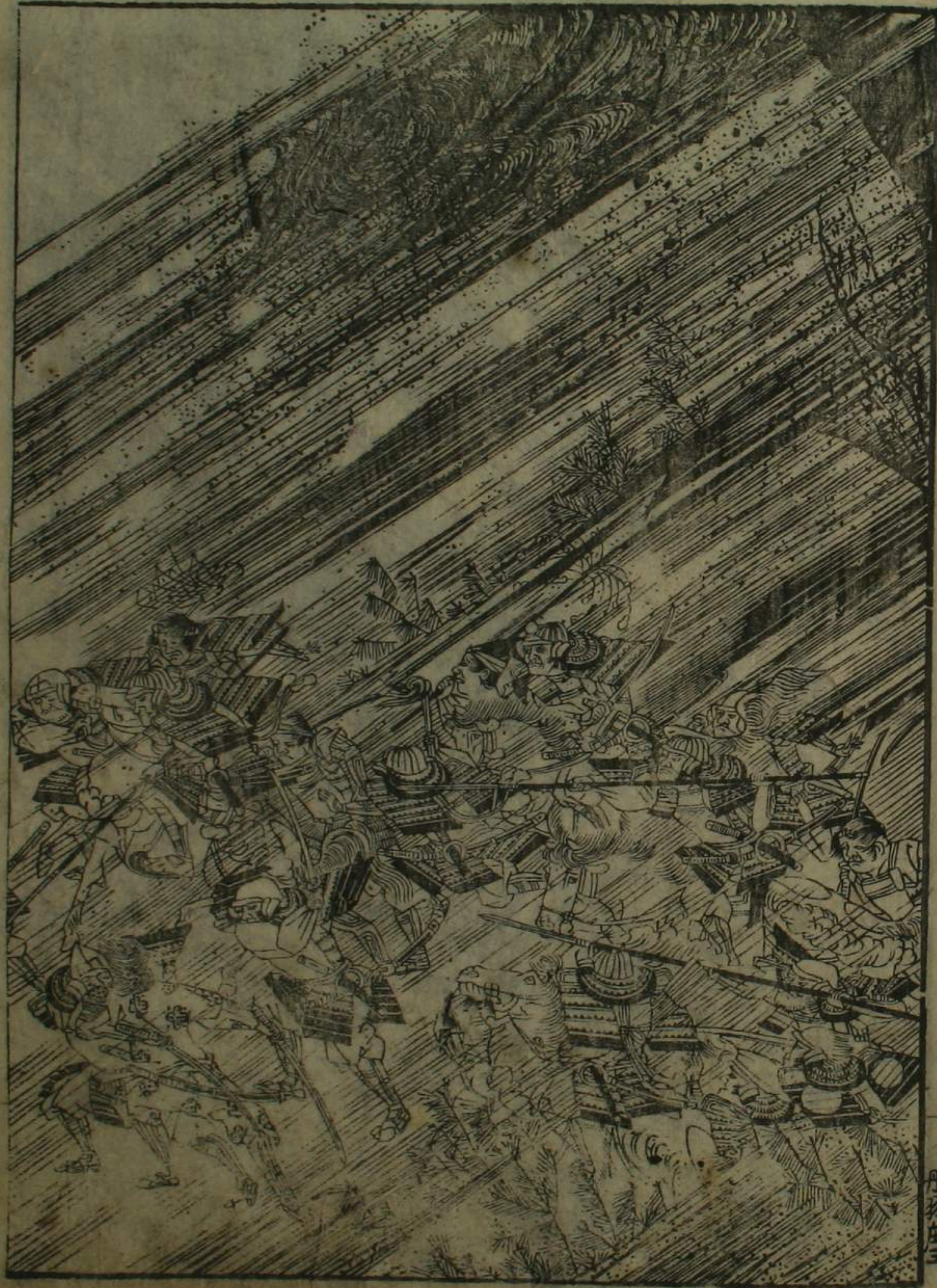


春泉齋画

尾羽有ね村の  
 名お細は漆と  
 藍と小紋と紅  
 諸國へも入れ  
 ちりほち  
 りん店あふま  
 貴く入る  
 新くま



三八世



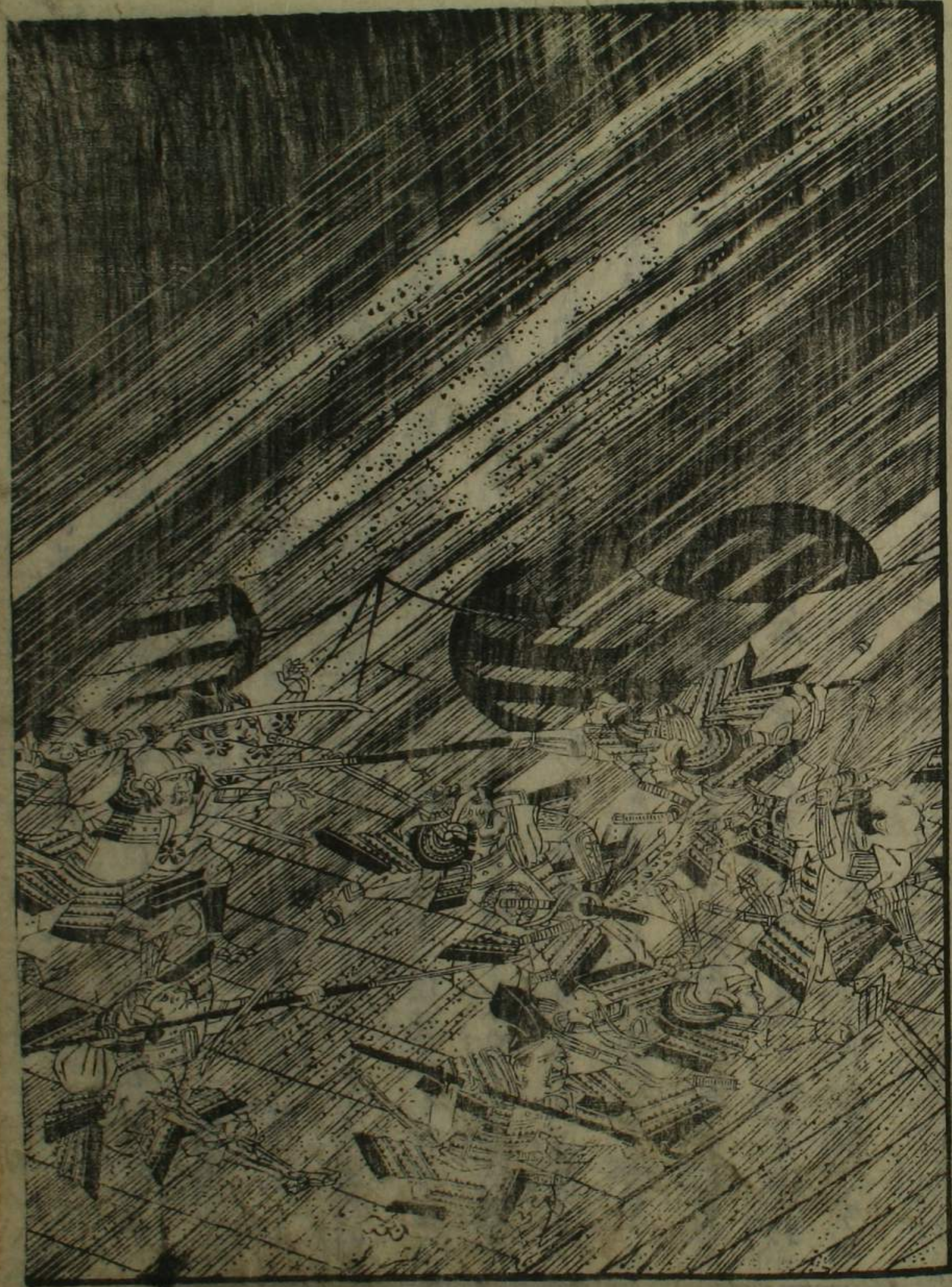
丹羽庄三



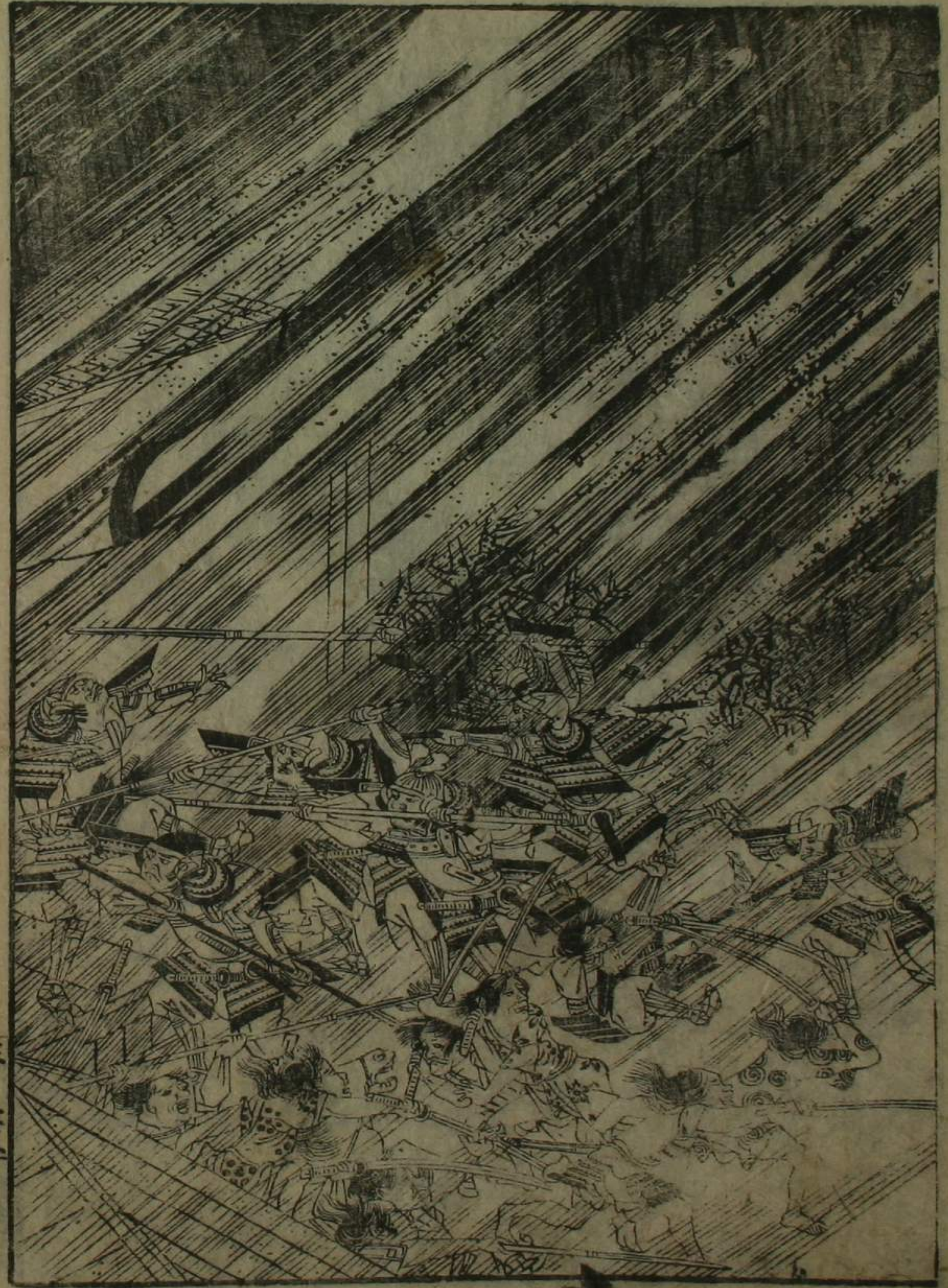
永祿二年五月十九日  
桶狭間夜軍

石田及河馬

三ノ丸四丹羽庄三



丹羽庄三



三ノ光五

かく平小相言葉松しておもむきさび攻むる今川方又勢をねむ計り軍令  
乱れく兵卒一校せされいの騎馬武者小駈立れ闇を暗し一面の車油のせ  
降れれを十方と笑ふふ織田道酒允林依波も毛利新ぬ赤尾徳薬田出羽  
守中条小市房遠山甚る邦同河内等号一もふありて遣入る半電の如し  
義えい床机小徳とちけ四方と白眼く下知りゆ所へ服部小平左忠次勢  
は中津藩して義え松岡豊て鑑とりてはく義えの猛將をねが事とも  
せ平小平左忠次藤の口を割つけり毛利新助後(向)大将とふ小秋の義えの運や  
そたりん新助小落合て終ふ首とせられ小秋相義えの首を今川園氏より  
代々相傳の山蛇とふ名劍と副て實檢小入る信長とふ信長とふ凱歌と揚揚ふる  
今川勢のしくもさで挑我ふ林依波も大者上りて大将今川夜とふ毛利新助  
服部小平左忠次村さたりと奥に今川方されぬ力と落し敗れ一校  
駿河勢討れし教合子五百餘と尾州方も五百八十余人討れしやさへなる  
され今川義えの駿遠三村守殊と英雄武畧名を得ぬと海内は只鬼神の

ゆく惶れも又運限りありて今川にねれり名に聲の老雲幽谷小園く雲  
風も古の幾しと墳塋と落葉と煙れ茂りたる茶いたまほさの道行人もむ  
まぶちりりある石にれりむり枯骸の魑魅ふ托し羊枯が墮涙  
の碑も兼月累りぬれを苔層繁しされども雄名の又地ふ久く  
文物の日星と若く高しとけありの事あるべし  
堰川 尾三二洲の園傍にけ橋  
軍士紀



池鯉鮒 岡崎より三里二十町に宿の入口は相妻川とありま川谷は流て海へ入  
曙記云此裡附あり中看小裡のくんれと夜あり  
け里の名小あひりりてをさるの料理とさる此の裡附 光廣卿

知立神社 駒の西入口よりあり延喜式内文徳實録云仁嘉元年十月加從五位上  
祭神膏不合尊 例祭四月三日湯敷中近隣二十餘村川谷下等の生主神  
多宝塔 社頭ふあり傳云嘉祥三年建之云九輪の意ふ  
山岡忠左衛門とありされ再建の御主と

古額 表正安寺(五八)神(法印)

神殿小庵む裏文針 古杉分明

末社 神母祠 神明 荒神 神離門 石橋 神籬の外あり比

的場 射塔の神的小中例年九月五日引の祭あり

除腹蛇神 札別あね智院社人ありあれと遠近あり

御手洗池 農社入口あり雨次作社頭は百八焼と

生りては池水に注ぐ忽感應ありと膏雨を以て面古代の傳ふ

古傳の面神實あり

不斷の池狸附の宿本綿市

池鯉射馬市 毎年四月廿五日より五月五日迄馬の東に

むらと後合松と馬場とあり東の東より馬場村とあり

長瀬中又後合松と馬場とあり東の東より馬場村とあり

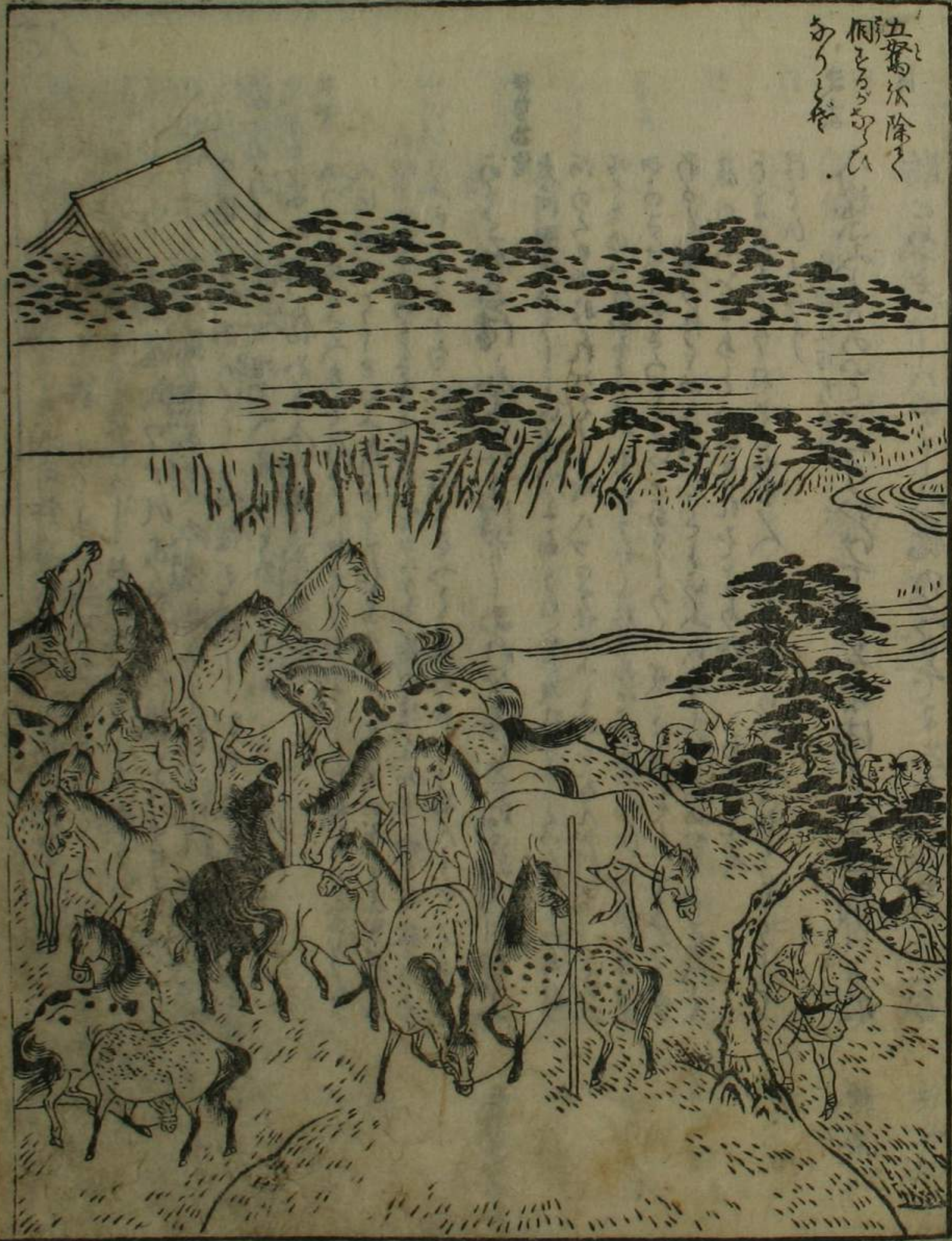
引馬の遠江國松原とあり

...

知立神社

知立神社の境内にあり





五馬除く  
 何となく  
 あつと



池裡納驛  
 馬平の毎茶  
 四月廿五日より  
 始りて十日の間  
 あつ周禮日  
 八尺已上は龍  
 とく七尺と騎  
 せ六尺と馬と  
 り馬は相とる  
 五寺の三麻









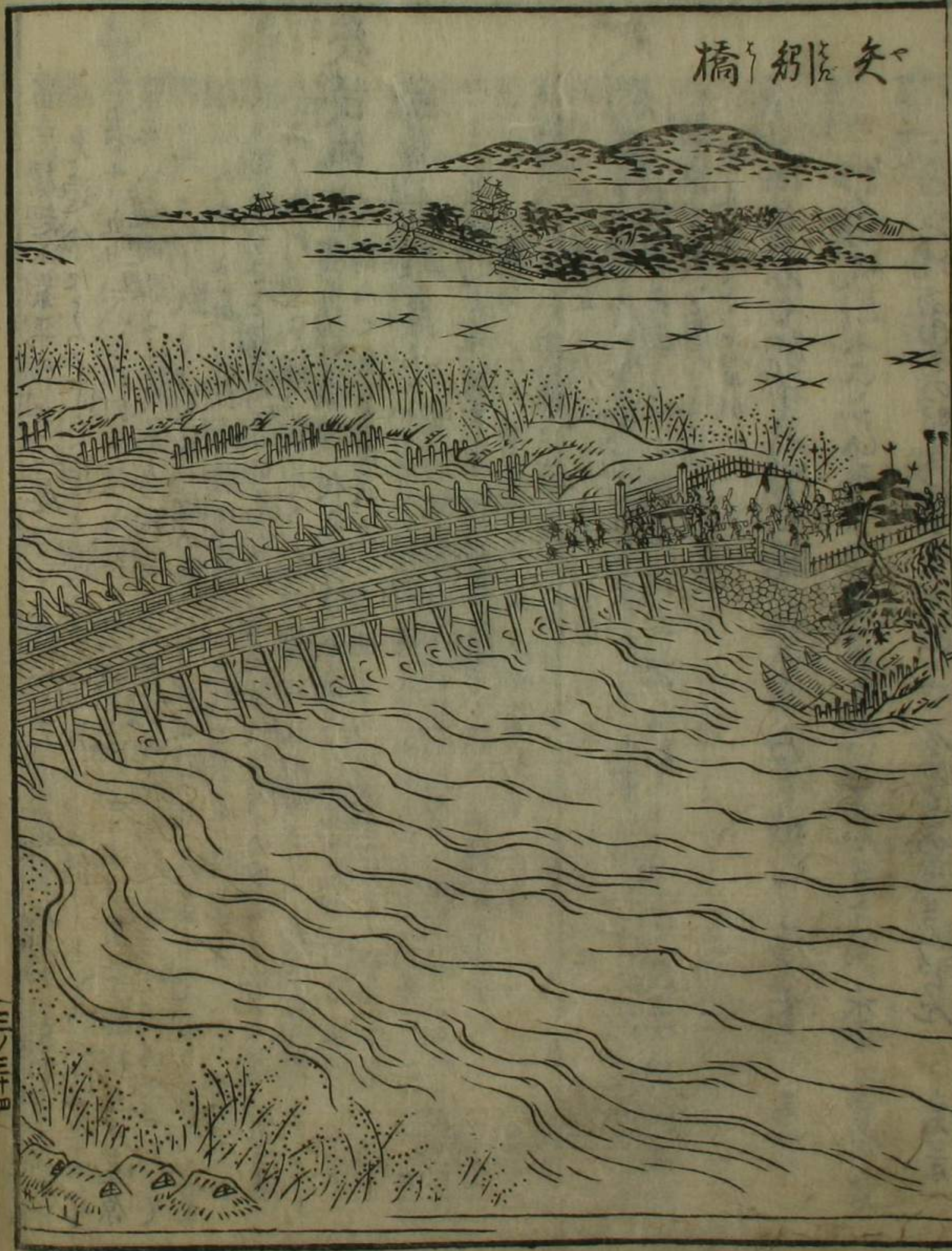






夫船川  
家の  
中と  
流道  
たり  
李喬

大船寺



橋の船屋

三十三日

瑠璃姫墳

西矢別たの方圓の中ありひう一夫那の宿此長が神の十二神將の比をれを海濱の所と云ふ今この地は海濱の地なり又い里小芸手判官吾妻下りの附ありて宿一美婦塚 同所東の山ありて同寺は名を愛一と云ふ

矢橋川

夫別里の東ありて源岐瀬山溪より落く末ハ磐塚川といふ豊川の二大河

三河之淵瀨物不落元提刺爾在手湖下兒波無爾

名居せそあろしてわあけさうやを兵川の礫乃一む 行家

矢別橋

夫橋川小架以長武百八間高欄頭中金物橋杭七十柱

東紀行 直まくふとわれと我がわとらん矢別北川乃橋の板と也 光慶々

今ハむ一建武の足利治部大補尊氏謙倉小在 天子の命に致すは

新田左兵衛督長貞第度使と蒙りてまにひの西原小陣も足利直義の

い川の東にゆく上下の瀬とてして進まりに官軍馳合せて足利勢を伐

も味を殺ぶるりゆくと天運と云ふ新田伊豆の國府も澤原一我勇

威不傲られ於縁の俸之却く足利を殺されぬと我為情くれ抑は合戦に根元

鑑不 後醍醐天皇公家一統の御代小帰一又天塔宮は足利直義に御けのを

直義姦倭邪知者され謙倉と密不敵也 天皇は御恨ありて足利直義を

勅ぞありたる尊氏新田も攻られて敗れ謙倉は建長寺に今剃髮得衣の姿を

成障ふ出ささといれたる謙倉軍に疎られ又旗上りあり八十萬騎の軍勢と

成て勝利を得ぬををを末紀小入り星霜累りて仍川の氷の古今に委ら

悠々と流し四海は海風標ゆく希勅の諸侯の弓と袋やく威風揚上ふ

凜々たりされ相如が檣柱の誓もく張子房が圮橋の兵書も入ら

只五粉の虹とて架せり長橋といはけ所の事あり

西辰紀行 森建武戦場 恩賜旌旗如日色東隅雖得失来榆 羅山子



都あま  
 沖も  
 藤屋の  
 日暮ふ  
 とき



岡崎の當國都會の  
 地ふく買人多く  
 美のわたる辰とり  
 半かー仙方延壽の  
 良業おあめあら  
 岡崎女希荒と小奇  
 とも観へあられ泊  
 不老の探くとも  
 みか旅の風流とや  
 つべさ

岡崎

藤原氏より里半岡崎城田名龍崎と云く永永の以松平右衛門尉泰親といふ人初て高城を築くそれより代々諸侯の御所なり慶長二年より本田彦領せしむ城下の町敷九六十餘町廿七曲といふ高岡部曾の社麗しして放生池石高橋あり生土神といふ

今朝平の足元より茶松のれおる人々の待やせ 小幡遠明

成道山大樹寺

岡崎より小里許野田村あり

本尊阿弥陀佛

座像七尺脇楯ふ糸光大師善導大師の像安ん

將軍家御魂舎

本堂の側あり又大書院あり神像右の方の徳田氏の源頼光念持件といふ襖の画あり持聖永徳の

將軍家御魂舎

源頼光念持件といふ襖の画あり持聖永徳の

將軍家御魂舎

源頼光念持件といふ襖の画あり持聖永徳の

將軍家御魂舎

源頼光念持件といふ襖の画あり持聖永徳の

將軍家御魂舎

源頼光念持件といふ襖の画あり持聖永徳の

千人塚

高寺門前念佛堂あり又十八年織田信廣と今川義元の戦に此奈依中古泰林庵寺齊長老が首將としてあつた

大屋川

其の川は夏の水は小流多く石を觸ると頗る涼しく其の音は清く

小豆阪

大屋川の橋より上り半あり天文十一年八月十日今川

二村山

和名小尾張國山田郡二村と云々契沖吐懷編と名抄より二村

名号

二村の山といひん 橋能元

山家

三のき二村山はつてははせもこれらもとやあひ

山家

出づら雲ふりて月わけのこゝろてま川二の山

山家

出づら雲ふりて月わけのこゝろてま川二の山





け山までいむり〜

何併尼

山の裾登小峠のあり所より

東鑑曰頼朝上洛之時

建久元年十二月十九日巳亥

二村山法藏寺

山中村より初行基僧の開基して法相宗也

本尊阿弥陀佛

法小松院所宇至徳二年宗師赤福寺教翁上人

其證夢のあり釋迦弥陀の二尊

御油寺にて十六町右の方より

赤坂

一衣をふゆさうの人びり

御道中記

赤坂と安はる里の

定元の家出たらしむ

あまのいんご〜

つらね〜

の秋芳〜

妻を身人〜

菩薩の化現〜

つるれ楽の音〜

いっあ〜

光行

中畧

近傳園白

平齊時

為相

三ノ河

三ノ河

三ノ河

三ノ河

本野原富士

水条平泰時  
奉聖宗の通標  
小くく柳成  
多く桂くれ  
より兜が  
紀りふこれ  
と賞ぶく  
周く且乃  
耳堂五も此  
せんをさる  
される



三ノ四十一

茶滅春色晚蒼々  
美柳や  
永丈君の  
州の木々  
蕪村



洛東大雅堂  
餘風夜圃







祭神菟上王

古事記云開化天皇條下大股王之菟上王  
者比賣臣之祖社說云祭神菟上王白  
鳳年中依神生併祀八幡宮祭式射取雀十二羽為祭牲  
三代實錄云貞觀六年二月授參河國正六位上兔足

神從五位下  
鐘銘云參河國宝飯郡渡津郡免足大明神洪鐘  
右為志者天長地久仰願圓滿國上安穩諸人快樂所  
奉鑄也  
大工藤原助久  
勸進聖見阿弥陀佛  
檀那朝阿弥陀佛

應安三年庚戌十一月

此所の村老云此後狂頭の東方土中より掘出れ其遺蹟方五向許の地  
今より存不衛公移住に連引

山本勘次故居

室飲郡小坂井の東牛久保村あり今第跡田圃あり  
牛久保の長谷寺小勘次の守伴摩利支天の小像安座に  
けん甲州源氏武田家軍師初は郷小棲で躬龍或耕しある阿列國小  
際流して専軍學と假天文地理と曉一韜畧公端一胸中八陣と  
畜て天下安危を能所視て牛久保を發其以天下北四將の其一甲州の  
大守武田大膳大丈晴信 難變後 駕と狂ふありと顧る事三つびよ及び  
人を辱して等と程好む事日々小蜜の家は遠山右馬助坂垣信賢等收む

晴信曰われ小勘助のつと奥小水ありがれ一再言復復以事ありれと宣ひ  
際小出陣あり日敷僅小十五日の間小信州を致く九嶽と臨みされみる軍師の  
計策小捷し威人云和朝の外龍明劉基也と比せん其頂名高竹中重治  
穴山梅雪真田幸村をとい山本が門子と程安へ

砥鹿神社

實飲郡 諸書、飲と飯の  
一宮村あり延喜式因峯の社と奉宣と稱ひ  
土田より 麓へ三里山路五十町峰の社頭と奉宣と稱ひ

祭神大物主命 風土記所祭大物主神圭田五十三束  
文武天皇元年始奉圭田加神禮

文德實錄云嘉祥三年秋七月丙子朔授三河國  
砥鹿神從五位下仁壽元年冬十月乙巳進參河

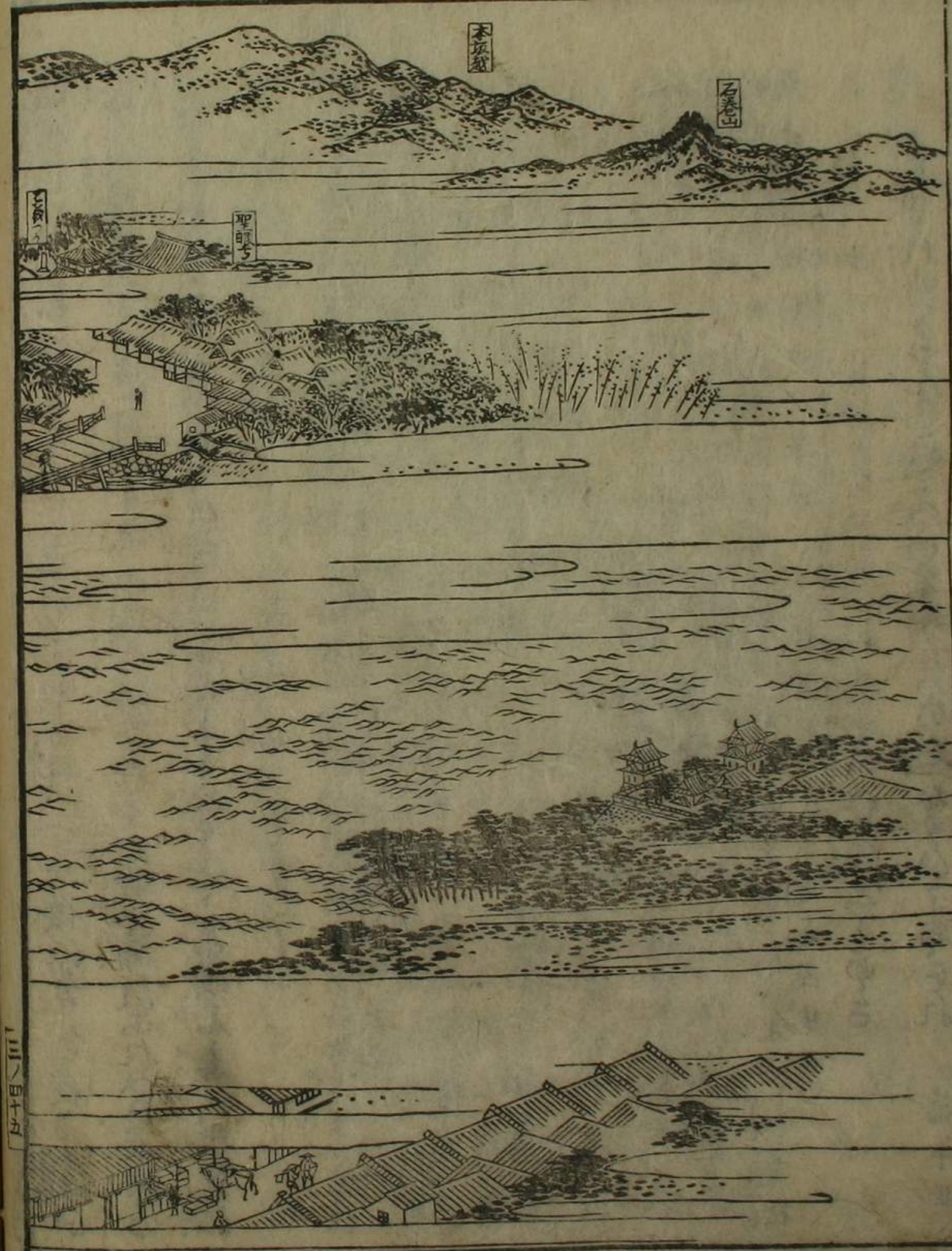
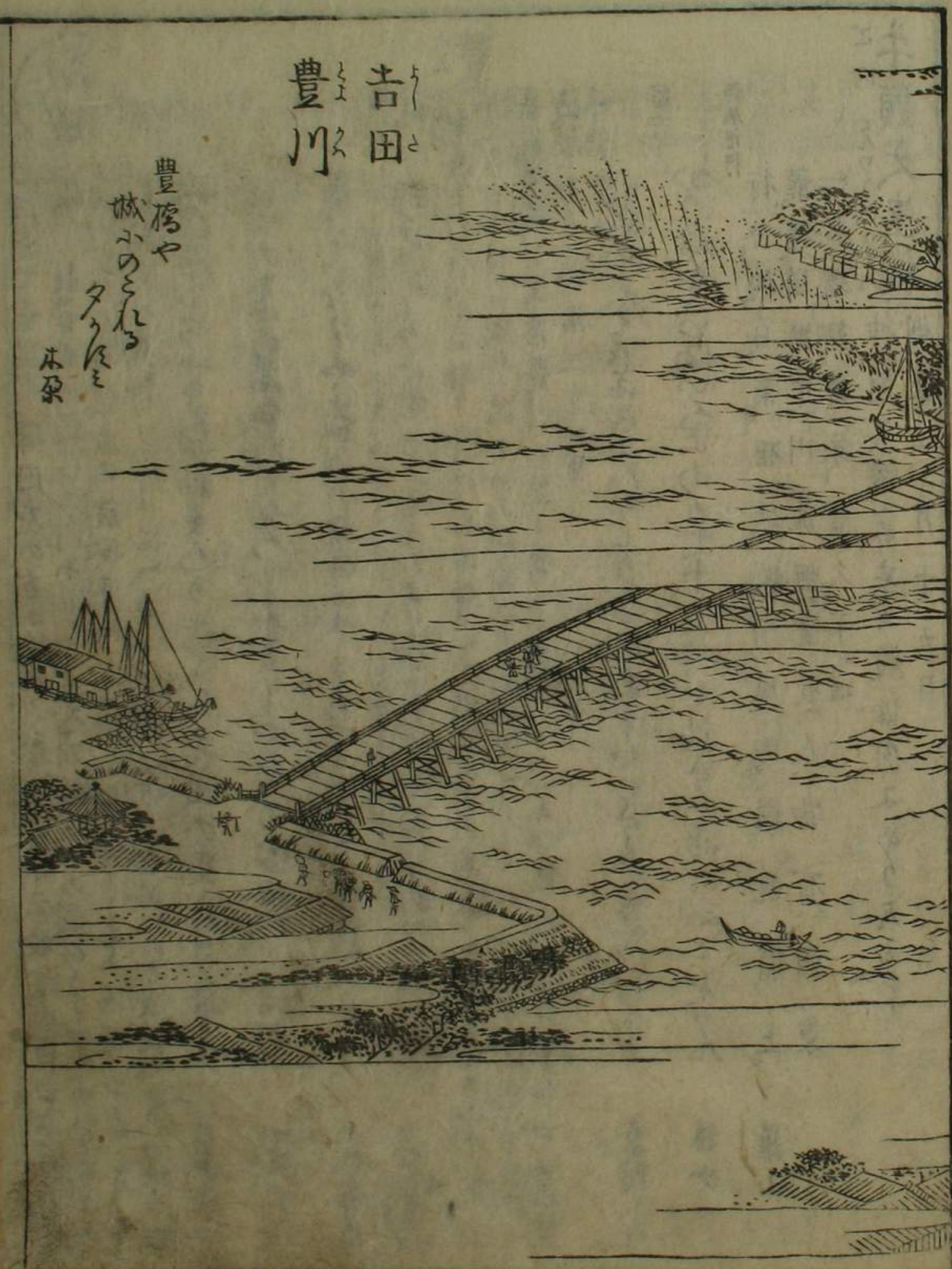
國知立砥鹿兩神階並加從五位上  
三代實錄云貞觀十二年八月授砥鹿神正五位

上貞觀十八年六月授從四位上  
社説云祭神大己貴命大物主文武帝御宇より大宮中草鹿砥公宣  
卿煙叢山山主勅使の時神意有て公宣卿とて高社の所神とま

ら心今の神主草鹿砥氏いけ公宣卿の流裔とて  
例祭五月四日走馬流鑄馬の形ありい本宮東に石巻社  
西に後投社奉母の里南に大洋御ぐり風之深妙の社  
依はつちれんともありりけのあみひの志るゆき  
まわれゆくらんをれこのきみさのあちひ了程され 楠千世

吉田  
豊川

豊橋や  
城ふのり  
夕ぐれ  
本原



三ノ目







駿府  
鬼印馬

煙巖山鳳來寺勝岳院 三州設樂郡門谷村の山巖あり

本尊藥師佛 長き寸八寸 扇基利修仙人一乃三體の他日光月光

神祖御宮 諸堂の上方あり 御宮殿壯麗微妙

拾き ありのや小さく櫻は色えん人の困るやう

紀伊 ありのや小さく櫻は色えん人の困るやう

送爽 鳩子 方之 三河 函關 倉海 波 物茂 卿

憶君 奉使 向三 河路 入函 關 倉海 波 物茂 卿

吹笙 幾訪 寒芳 州歇 芙蓉 峰 齊 白雲 多

鎮守三社権現 中央熊野権現 左山王地主権現 右白山権現

六所護法神 利修仙人百餘國より 序朝の時六人の護法神

開基利修仙人堂 此堂の飛彈の迹 遺れしとて 飛彈の迹とて

常行堂 本寺の法陀併 此堂の及 九砂盛長 三の國七街堂

三層塔 源頼朝の建立 権原新時 権原のより 云傳り

鏡堂 護摩堂の傍あり 業師の東方大圓鏡とて 諸人の願より

昆沙門堂 一王子 二王子 荒神祠 弘法大師堂 元三大師堂

鐘樓 樓門の傍あり 鐘の音を 光明皇后の所奉じて

名跡題目石 樓門の傍あり 弘法大師の投筆とて 諸人の願より

八王子祠 生土神とて 妙法龍 下あり

奥院 本堂より九町許 山奥あり 六本杉 奥院の路傍

煙巖山 本堂の西よりあり 利修仙人 護摩を修むる煙あり

勝岳院 本堂の乾ふ當り 利修仙人 古に在りて 簫を籟ゆ

瑠璃山 奥院より 乾ふ當り 利修仙人 瑠璃の壺とて

隠し水 西谷より 利修仙人の加持水とて 早天霖雨と増減あり



と安置せし事あり奉來此願をいと奏トクハ感ありて大空三年造匠其後  
光明皇后此所著にて風來寺に願を賜ふ青赤黒の三鬼ありて常小利修仙ふ  
隨從せり仙人入定の時三鬼の首を兼師堂の下に埋め高山乃守護神とて  
え和年中本堂炎上の後造立折朽石礎ありふれ出づ高山の鬼僧初て  
三鬼首とてなるも又えのやく封じて藏り埋しとて宿者利修仙人の許へ  
勅使公宣卿登山の折々本宮嶽へ昇り其時老翁召れ導引して勅使  
松高山へ送りて公宣卿極ふ

五務や海山のまのこひ似く浪のさけバ松風の音

本宮嶽の神傳ふも其事と記すと毎山月二十日四日若菜樂と親ハ獅子舞  
田樂修正會は節捧松振もは三鬼の由縁といふ押岡山利修仙人原山城園二葉  
里賀茂岡賀都岐麻呂の子也 欽明天皇紀三十二年庚寅四月七日小誕一利修  
童子と号く旅長の後忽然とくは山嶺より爰中に五疊山の長伏仙人  
ふ謂く千葉のまを授けりゆふ其峯は千壽峯と號す其後万葉歌

保ちんるより万壽返と云所今あり 陽成帝元慶二年利修仙人二百九載  
の附勝岳の深窟ふ入定し高木慈氏の出雲と俟とてり巖窟ふ池水あり今に  
時々振鈴の音幽小愛ゆるとされ武陵人桃花源小遊ふ似たりまづ江府此峯  
まふ消さるも多々秋葉山より登りて山路八里と登てまふ不到京師より消  
さるも御油の驛は端より入りて高山にありて八里餘あり

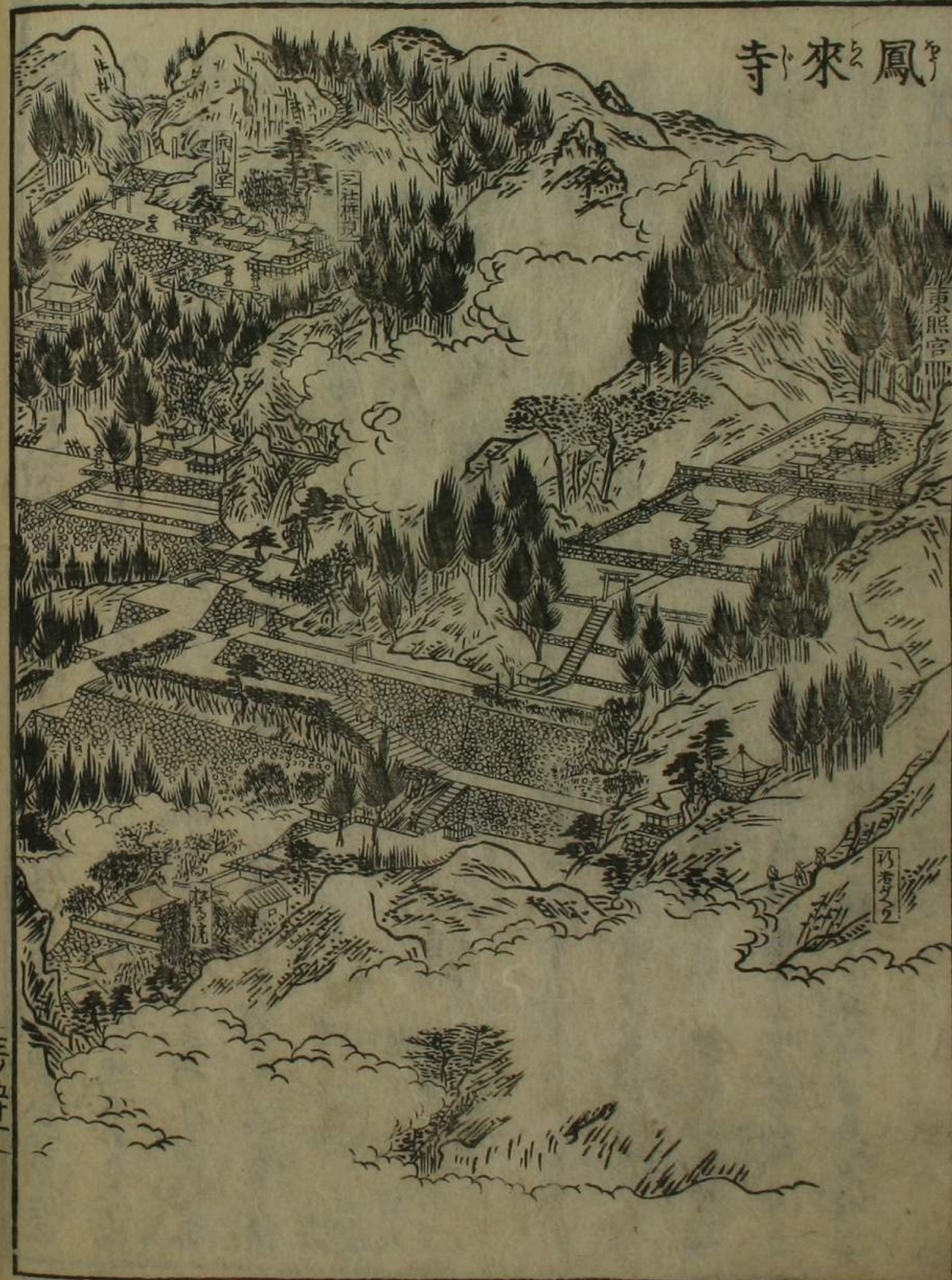
篠田	大城	半田	長山	小岡	柿本	東上	中村	野口	八幡
野田	新田	下谷	宗高	大見	志多羅	大壺	山古屋	権現	権現
尾波	新田	下谷	宗高	大見	志多羅	大壺	山古屋	権現	権現
瀧川	豊川	追分	門谷	三里	鳳來寺	門谷	門谷	門谷	門谷

能泊るありそれより橋をりて樓門ふハ石階登る事約く九町ありそ  
町毎石標ありた右より老杉翁鬱して旭の出る事迷々して階展のお側  
も僧房連りて天台真言の二流あり一念三千此諸法を破し胎金兩部の羯  
磨會法具一決すふ光れ寶閣金塔神窟佛龍玲瓏して壯觀なり  
直王維の併と好し山水絶勝する清涼寺よりして冬洲と名を傳る  
第一の名刹なり



ヒクキ

鳳來寺



東照宮

乃若ク

三ノ五十一









新橋古

昔をて日記の如くたり山あふ泊やさくゆりま

前中納言 雅方

新拾遺

溪路よりあふれ高師山峯まで同一松風をふく

津守國之

同

秋風よりあふる月の高師山峯の浪は幸哉文の如く

寂蓮法師

二本

高師山を流るにえゆる下への根をけり人あはてそふ

民部卿為家

同

松風を湊るといつる友船々高師の山の松をく

西行法師

同

風をけ高師の山は白波のやうなりしと作りてん

慈鎮和尚

同

高師山松を流るこの松風やふもこの里の浪の聲

雅有

同

高師山夕まをてそふまをてそふまをてそふ

為家

東関紀行

冬は遠江の隈ふ高師の山と空ゆるり岸に松の影をに谷川のあられ

同

あてそふ殿の波あはくくくく岸田勝川とふ

源光行

同

岩はさし駒うちりてん谷川の音も高し山ふさけり

源光行

土名日記

あつ山もさえりうみえもはげしくあつし浦風われて松の

同

あつ山もさえりうみえもはげしくあつし浦風われて松の

源光行

同

あつ山もさえりうみえもはげしくあつし浦風われて松の

源光行

同

あつ山もさえりうみえもはげしくあつし浦風われて松の

源光行

橋本

名不

つうたぬ波もたつれ漢形とん袖のみをの風をゆをゆて

五條内府

紀行

うづりてそらまぶるまをてそらまをてそらまをて

増基法師

女谷

名不

橋本あり建久元年右大将頼朝の上落しゆ旅籠の旧蹟は橋本の

橋本の

同

遊女ありし朝朝薨下ゆ後貞操ありて居たり妙相と号し一寺

橋本の

同

今橋本村教恩もふはをそりて

橋本の

同

東鑑云建久元年十月十八日於橋本驛遊女等群奏有

橋本

同

同書云同年十二月四日天霽前右大将家令下向關東

橋本

同

同書云嘉禎四年二月七日將軍頼經公上洛之時今日

橋本

同

着御橋本驛陸奥大即實時宿舞澤

橋本

同

同書云建長四年三月九日宗尊親王鎌倉御下向之時

橋本

同

今日橋本驛有御宿

橋本

同

荒居古老遠網記云橋本の遊里は花香町といふあり人のあま

橋本

同

あつ山もさえりうみえもはげしくあつし浦風われて松の

橋本

花音町を今橋中東福寺の東に  
北へ小橋あり今橋中東福寺の東に

風爐の舟

橋本長者の屋敷にあり頼於んば驛宿庫の時湯の舟  
名水あり今橋本の村中民家の家裁あり今橋本に  
延喜式内名神大橋本村あり今上下通訪明神或ハ

南遊彦神社

文徳實録云嘉祥三年秋八月披申詔遠江國濱名郡  
南遊彦神社先是彼國奏言此神叢社取臨大

湖湖被水所流舉土頼利湖有口開塞無常湖口塞  
則民被水害湖口開則民致豐穰或開或塞神實爲

遠湖振振記云南遊比古神社大湖と記せり此神の用塞於守り  
則神のありて文徳の神記に記せり此神の用塞於守り

紅葉寺

橋本の西ふあり中足利義教公富士紀行に寺あり  
ありて紅葉の愛しむる寺なり今橋本に寺あり其後

山氏といふむの領主を築あり又東福寺天神祠あり麻乃池  
あり今内山村あり麻の池の今田圃とあり

濱名川

今切ありてなり廢古の遠湖より流れ白雲の東部の濱より  
海に入今内田とあり濱と廢又池あり背の川名形大畧あり

濱名川濱をうらにえれば松糸めづる海士の侍り也  
濱名の夕波をむら山風ふ高所の仲もわれはさる也

濱名橋

荒井古老遠湖記云濱名川と云くして岩あり山野の衆流は川より帯の濱  
へ流る湖水静ふして小舟小棹沙々ふ西の方へたより流る云

三代實録云陽成天皇元慶八年九月朔遠江國濱  
名橋長五十六丈廣一丈三尺高一丈六尺貞觀四  
年修造歷二十餘年既以破壞勅給彼國正統稻

一萬二千六百三十東改作焉  
塩にて作や中なり人旅人や濱名のもよ名は初見  
兼威

白金糸  
白波のまわりをうらにえれば松糸めづる海士の侍り也  
前齊院  
尾張

濱名橋  
洗つるまもさうと云妙のまはなありけ秋の夜の月  
後永光俊  
前内大臣家長

日  
たり山夕旅これく麓を濱名の橋は月をさるる舟  
政村大信

日  
風をさるるまもさうと云妙のまはなありけ秋の夜の月  
為家

日  
まはなと濱のまもさうと云妙のまはなありけ秋の夜の月  
宗尊親王

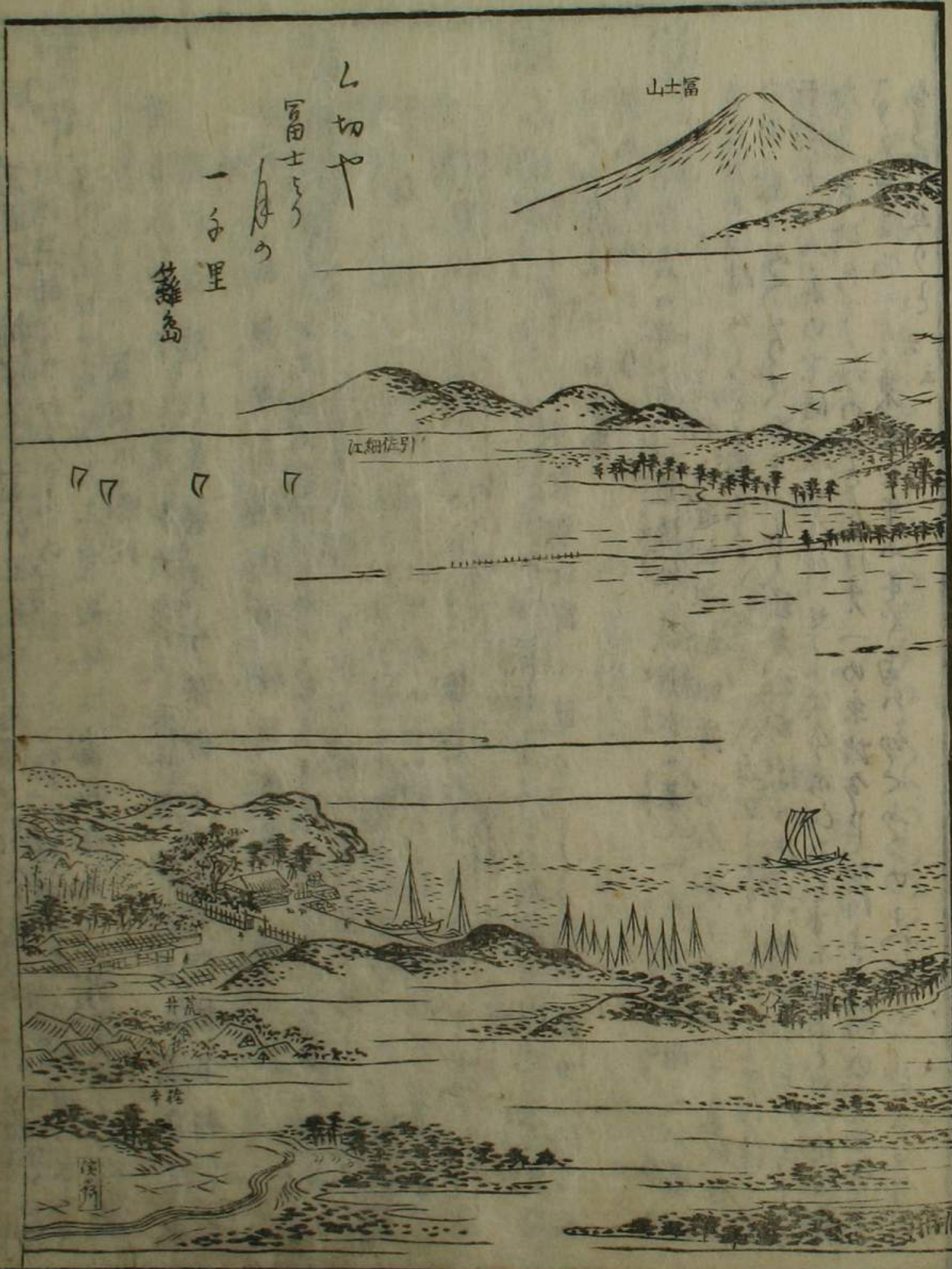
日  
うらにえれば松糸めづる海士の侍り也  
大江度秀

日  
まはなと濱のまもさうと云妙のまはなありけ秋の夜の月  
津守國道

日  
うらにえれば松糸めづる海士の侍り也  
津守國道







し切や  
富士山  
一千里  
竹藪島

富士山

江細江

井原

中野

深河

今  
切



表集  
たつとく  
海と川と  
舟と橋と  
松のりま  
雅經

沢原

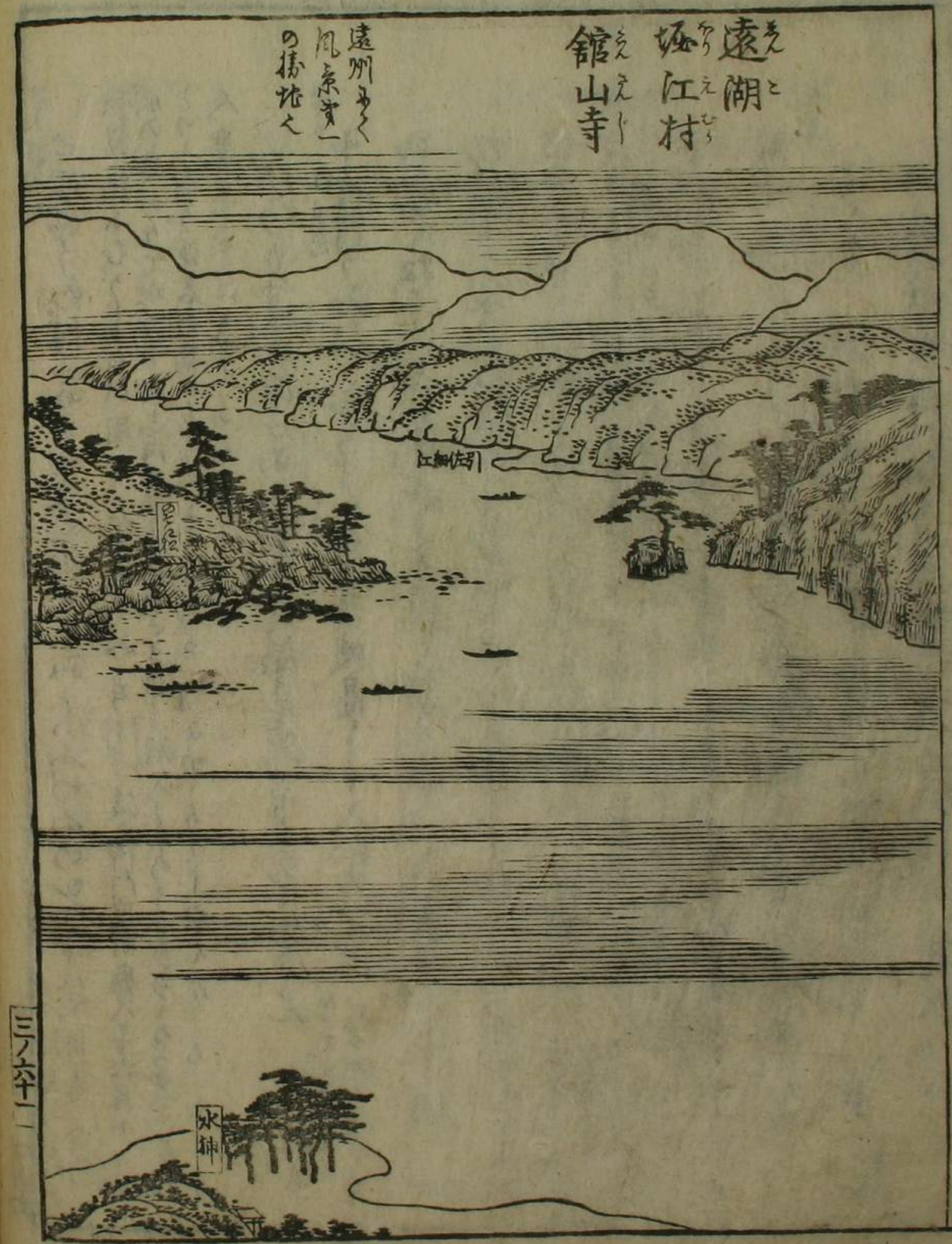
三十九

江戸





ヒグチ



三ノ谷

水神







引佐細江

引佐細江 所を右の記より古蹟なり

東紀行 引佐細江は平江のあふあぬもろくはなるそくゆさふは

千載

光慶

引佐細江 引佐細江は平江のあふあぬもろくはなるそくゆさふは

引佐細江は平江のあふあぬもろくはなるそくゆさふは

引佐細江は平江のあふあぬもろくはなるそくゆさふは

舞坂

舞坂とも書けりや人の舞臺ありて昔は松原といふ  
濱にありて沖里三谷町あり大に舞臺ありて  
夏州下田まで海路七十五里と云ふと遠江灘といふ  
荒井と云ふの海船着坂も昔はあり

舞坂のつらつらと云ふ所は公より山南と云ふつらつらと云ふふして西と海の濱  
ちう錦花繡草はまづいひいひと云ふ白蛇のそ有る者のほれぬふけり  
そのあふたせむいひいひと云ふ塩風梢小若信よりやけは丹彦ありて  
いゆる漁人の釣家わだのまきうあやうんまきと云ふ所は丹彦をいふはし  
あふ光ゆけ後よりちつれと云ふ藤人ののりて雲をいふのけりといふは丹彦  
本像は観音なりて海と御堂をくつわれたるありてちなる事あり  
うちいふ所はなまづは年月と送る程は一と勢のむむありて鎌倉へ下り  
筑紫へ色々りけ観音乃御堂ありてちなる事ありて丹彦をいふはし  
り御堂と送る程は一と心の中よりと云ふたつらなる鎌倉までのも事あり  
なるふより御堂は送りたるより人々くる事ありてちなる事ありて御堂へ  
まのりこれに丹彦の白ひ風はちと云ふちなる事ありて丹彦をいふはし

ちり願書と云ふ一と物戸帳の紐小結び付たれを弘誓せふと云ふ  
海の水一とつらつらと云ふたのり一とあはえと云ふ

馬郡観音堂

兼次郎の東馬郡村あり土人三浦りといふ大徳院と号に右の記よ  
りて観音の定額作といふ長と云ふ人ありて

音羽松

海道の南小浜渡村あり古松ありて枝比上は軒く砂は遠ひ又延く  
風流の名ふて村口村のざんさ松と云ふありて

竹林二ツ堂

本尊強陀業師の二件長と云ふ人ありて

賀茂祠

岡部ら伊場村ありて所上賀茂依行岡二即定額の傳領ありて

甲江山鴨江寺

鴨江村ありて古真言宗の寺なり

本尊聖観音

本堂ふあは其外御影堂 経堂 鐘樓 塔 跡に本堂の東  
ふあり 鎮守牛頭天皇 行者堂 ちふ堂 妙見堂 宝蔵

三十三所観音堂 攝待所等ハ本堂の西あり 赤坂天 金御地蔵 烟蔵堂  
五智如来ハ二王門の内あり 地蔵堂ハ内外ありて八王子祠へ東に入あり 坊舎ハ  
真言院 藤本院 蓮華院 圓備院 西寶院 實蓮院 光明院 妙音院 吉祥院  
西宝院 其外 僧院 空坊多し 境内 方四町餘ありてけまのたけあり  
東駒拾遺云むし 大宝のひは里に觀世音の信なる農氏ありて又南都より  
東の方へ女が宿りて是則日頃言むる觀世音の利生と云ふけ寺を建てる  
家族富榮と云ふ世の人 芋畑長者と云ふけ古跡寺の西あり



後古今  
 狩心みり  
 初満のや  
 秋は  
 天子御王



引馬野

金門畫史  
 狩野縫殿助藤原永俊



三ノ六十六



松  
と  
ん  
れ  
ん



ヒ  
グ  
ナ

永享四年九月  
將軍足利義教  
畠山重成を  
権大信都亮  
あつらひし  
道の紀を  
引馬聖の松林  
おく宴瓜僮  
興に奈トの  
あれより松の  
言ひまへんと  
帆を縁やく  
今に御々松と



石田夏汀画

三ノ六十八

諏訪明神社 淡和の初なる國上中流のねる鎮坐あり弘治二年七月神誌よりく神祇大子先驛路の例に遷ら

祭神 健御名方命 八坂刀賣命 社説云信州諏方郡南方刀美神同躰

社記云永祿年中 國初將軍家為城入所の時崇敬厚く社領若干所寄附あり若所誕生より所生土神と讃ひ其の代々將軍家より所修復あり神殿唐門金燈爐樓門御隨射朱鳥居御供所山王社御祈禱所嚴重しく社齋する社頭

五社明神社 同所あり初國士久聖依波守の末子孫中武術鍛錬の爲神祇祭行んやふま日大明神公勸法入

祭神 武甕槌命 經津主命 天津兒屋根命 猿大根神 太玉命 多玉命 補翼 或云往古より此地に太玉命の神社ありこれ春日

四所依保記より五社明神と云ふ社同奉ふ代々の將軍家所崇敬あり社領若干所寄附あり所修復多し社殿唐門金燈爐樓門石鳥居所末社齋する社頭之例祭九月七日神馬五疋派敷あり

光海靈神碑銘 これ實は真淵の撰ふ一七為社神主奉暉昌の碑也真淵は此地の魁なり其の撰ふ建つを

遠津 淡海引馬縣 爾 坐 五乃大神 社之神主從五位

下藤原森朝臣 暉 負外民部少輔懸 此朝臣初冠

而嗣父朝臣之家其家世々傳神道復受荷田宿祢大

人之誨也日獻嚴饌捧嚴幣白太諄詞奏神遊許多

事悉依上世而其儀雖他大祠 有不及是朝臣功

之一也夫此大神 奉爾東都乃二御世 鎮天下

賜御軍大君始生引馬城故為御産靈乃大神也下大

命千尋榜綱打延天津真量 爾量成宮柱太繁垂椽

高知 奉齋賜 雖然積年天御蔭將壞朝臣恐 美

畏 恭向東都訟申憂申 始于元祿十七年 七

十餘度 享保十二年七月給黃金而令修造其經

營多年而修成如故延享二年九月以古式奉遷宮

竟是朝臣大功之二也朝臣家本在市中 每齋事

不便雖欲移於社下之丘其地有甚科峨引五百 都

磐 為垣累八百 都土 得成 遂作出居則坐觀富自

嶺之夏日 乃雪時人羨彌長復大人矣是朝臣功之





下中、淡木の寺をござんせし酒造り名附ありありされど  
解も鄙も酒造りありされど酒造り名附ありありされど  
の寺の傍にありて酒造り名附ありありされど  
青林山頭陀寺 高野山法性院の末派也  
本尊薬師佛 行基菩薩の像一説毘首羯摩天の像も有り  
文武天皇 大宝三年草創

阿彌陀堂 丈六の阿弥陀坐像  
二層塔 大日如来  
一王門 執金剛神  
運慶の作

勅額頭陀寺 遠州頭陀寺、預於定額  
護摩堂 本寺不動明王永祿無火の後本堂日安江僧院へ  
植松原 傍松の東植松村にあり室町將軍富士見下向の時  
亮孝信正の所也

蒲神明 神籠村にあり云代實録云貞觀十六年四月十一日授遠江  
正六位上蒲太神白伊大刀自神並從五位下云云 神主蒲  
未裔と云ふ

茅場 本寺本坂越り出る道あり三州陣地入りくまふ歩也  
行徑十三里半許

京江戸行徑同里 町庭村と云ふ又中之町とも云ふ  
又龍川の西端也

大鵬は馬や作樂入るは好の翼ふ六十里ばく 斑井  
天龍川 川幅十町許一瀬二瀬の二流と云ふ船は一とあり源信州殿  
訪の湖よりあり未と云ふ注し其所と云龍灘といふ  
寺ありて名も天龍寺といふ後利あり  
十六日日記  
天龍川といふと舟小なるも舟はくまふも舟はくまふも  
心不替一くみぬとせざる舟たぐ一つやうに舟はくまふも舟はくまふも  
舟はくまふも舟はくまふも

舟はくまふも舟はくまふも舟はくまふも舟はくまふも  
舟はくまふも舟はくまふも舟はくまふも舟はくまふも  
舟はくまふも舟はくまふも舟はくまふも舟はくまふも

舟はくまふも舟はくまふも舟はくまふも舟はくまふも  
舟はくまふも舟はくまふも舟はくまふも舟はくまふも  
舟はくまふも舟はくまふも舟はくまふも舟はくまふも

舟はくまふも舟はくまふも舟はくまふも舟はくまふも  
舟はくまふも舟はくまふも舟はくまふも舟はくまふも  
舟はくまふも舟はくまふも舟はくまふも舟はくまふも

舟はくまふも舟はくまふも舟はくまふも舟はくまふも  
舟はくまふも舟はくまふも舟はくまふも舟はくまふも  
舟はくまふも舟はくまふも舟はくまふも舟はくまふも

舟はくまふも舟はくまふも舟はくまふも舟はくまふも  
舟はくまふも舟はくまふも舟はくまふも舟はくまふも  
舟はくまふも舟はくまふも舟はくまふも舟はくまふも

舟はくまふも舟はくまふも舟はくまふも舟はくまふも  
舟はくまふも舟はくまふも舟はくまふも舟はくまふも  
舟はくまふも舟はくまふも舟はくまふも舟はくまふも

天龍川



石田 支門

三七十三

船田入道 技方將  
新田 義貞 飛超  
天龍川 絶橋



されを天竜川のあがれおぼ浩々として驚波龍門ふちの死はひあり晋  
は重耳と壁に投じ桂に浮はし星斗小近き天兵よりむし一連成の丸ふ  
新田元中将義貞東園の軍に利ありて帰りせしれし事以て平犯ふ  
ちりして天龍川の東に宿し着のひ俄に在家に壊し浮橋をせはされ  
る諸軍みなマツ果て後舟田入道と大將義貞朝臣と二人橋に  
マツりぬひたるふいふ敵心者もさうらん浮橋に一間張繩切て捨り  
る舎人馬次率て渡りたる馬と若く倒し入浮の流にぬかれたる粟生  
左衛門權者あが川中へ飛入二町をり遊ばはて馬と舎人とを左右  
にふさし上肩に招き其の座に静ふきて向の者(七)着りたる馬に  
落し入る時橋二間をり落し渡りたるも毎もろろ舟田入道と大將  
と二人もさうらりと飛渡りぬ其跡は候たる兵二十餘人飛のひく  
着く銀個一たる以伊賀園の住人名張八郎さく名譽の大力ありたるぞ  
後して取せんて鎧武者の上巻を取て宙に引さげ二十人中で手投越えたる

武人残り有るは左右の脇に控りて狭く一丈餘落る橋にゆりて  
飛ぐ向の橋桁に踏たるお踏所少しも動くは誠な逃げぬらんわれば諸軍勢  
遙かよれは見てあゝいあゝわれ凡まの態なれば大將といひの者若  
とひいづれば捨下とも覺はれぬ時の運も軍小赤負のひつて  
うしてさうと云ぬ人さやあうりなれと起し又梅松輪小義貞天龍小  
橋のけさそお渡りて後林で故に向小勢あて川を渡り高て飛あて退  
はしとさし韜の謀めて橋を切り武略のひねり故こそも身は渡りて  
橋に切落して故ふ急な襲われしと周章ふさめたりと云せん事  
口惜むるべしと橋を堅固せよと渡られし事なごんてさうこれ  
らと考ふ小義貞は武畧の人かして閑羽が賢豪小張飛が雄力を  
兼くし 後醍醐帝の登運やばさうりあんな遠く  
新田楠の豪傑魁しと亡びぬる事もみななれ夫の  
る勢所とさわれたる

銀闕玉樓  
帶晚霞情  
春舞袖獨  
堪嗟何謀  
為得新恩  
寵無奈東  
方及落花

箕山



平重衡口  
西海の合戦小  
あまけりて  
あまけりて  
下つて来た  
沁田の家  
侍従  
龍  
琴  
桐原  
眼  
苦  
あ  
思  
あ



三ノ七十四

ヒグチ

春泉画

池田宿

天竺川と云ふと書より後世川變じて東麓と云ふ

我れ此の里を流れて旅のつらき池田にたどり着かれ

泰遠通資

富士紀行

③たゞる池田の里に旅のつらき池田にたどり着かれ

竟孝法印

丙辰紀行

美濃の青墓遠江の池田駿河のも旅のつらき長者遊君のつらき

性還の武士將流は少年鞍馬門には千金の買とて旅をかれ

かゝ江口乃津やも手ねたりけん天竺大店のめされ湯谷もけ池田乃

宿のむまぢにめゆる事ぞあつけれ今い宿天龍の川の東に端ふ

形むろく残りて終る小民もつらき旅守りて居ゆる大天竜小

夫終としてこのありたるが新田左中將の尊氏と旅ひ員てせられ

る時浮橋の桁けりたる旅飛鞍られたるもこの事江都が津

捷の匹々たる旅人の事を細流に天龍の事と今ぞいつりあは

池田驛長本倡家處子嬋娟天下詩  
腰似楚王宮裏柳面如巫女廟前花  
古今不盡洪河水湍瀨相移兩岸沙  
治乱興亡非我事征鞍暫憩且嘗茶

羅山

重衡海道下

漢名の橋と渡りて入江小唄と波の音とて

旅と物憂ふ心旅盡すゆか間之れ池田の宿も着ゆひ旅の宿は長

者旅登が女侍流の許し其後々之位宿せられ侍従之位中ね殿

旅見きて目来と侍ふた小思に書りぬ人のつらき所へ入らせ

ゆか事の不思議とて一首の歌に作る

旅れをばおぼれ小舟のいせふ旅のつらき

ふらふらと旅の都も終るまじり

や有る中將権原公朝と只今旅旅のねい

しと仕ふるものゆか旅のつらき

志流しりされいりむやわれよ七八

かゝ旅らやゆひし時めされまのつら

痛りりつら都より時時と申上り

いふせん都はまじり旅をかれ一吾妻の花をみるらん





便利伽羅龍と現く觀音薩梅を二十三の化身あり信まう大慈の方便  
小あらばといふとありは法然上人師弟此約めればお到りありは慈ある  
ごたあるなり凡慮の如所ありあはれと著られしと安しと  
今の浦見附處の南に今ありあせて居る  
八幡宮の後は地ありあれ今の浦の宮跡  
今のうらふ着ぬあふ宿りて一日二日さまりたるほど浦士の小舟小  
棹さへは浦の色を感えられは地海ありてよりささたさく魚た  
りく南の極浦の波社以瀬しやま長松の風をさしはしむ名残  
多うり橋本の宿やぞ似たるこのあそりなりうらうすの是もあ  
さまさしとあざらばはしむる覺く

浪れ者と松れありも今の浦の浦の里の名残とぞ少  
光行  
袋井中へき里半富士山ありてはゆるゆる見附處とす  
十六夜日記  
あそひるさははあそひる所ふさほる里りれて物  
あそはしむるにありの井あり  
惟う来てははけの里と安らいたく旅森をそはし死 河併

見附江

今身とたれおらんともかへりては里の名とてり  
え改法師  
よゆらわくふれまよの葉はて母たがへふは島根の  
當面見來見付臺邊繫馬立裴細  
太平有象松山色忠勝勇名俱壯哉  
山寺蘭齊

三香野橋

今身とたれおらんともかへりては里の名とてり  
え改法師  
よゆらわくふれまよの葉はて母たがへふは島根の  
當面見來見付臺邊繫馬立裴細  
太平有象松山色忠勝勇名俱壯哉  
山寺蘭齊

金札鶴

みうの橋の東川西橋より十町計たの方ふ井村といふあり里云  
むら大將頼朝々鶴の鶴を撰さんく鶴の腰小金札紙付て  
幸師次ありはちのふとく今あり

熊野権現祠

伊原といふふありの樓門あり社一字見入る熊野権現初傳  
さしに又あやみかみはてみる魚さしと浦のさしあ  
え唐々

袋井江

掛川まで武里拾六町土人云むは地四方丘ふして中田園ありて袋の  
めし真中よりなる井泉あり四方田畑の辨とれ故小名くたの方  
半里許ふ久き村といふありは山下小漕洞宗の禪刹可憐齊と  
いふありは遠く三州の熱湯あり香き村たの方久き舟師守  
の古橋あり寛永の辰の糸糸出羽ち低重りては居候又中山法師の  
通あり山上の地が跡といふあり又七葉橋初祠の字ふ金十舟狐といふ



遠州 櫻池



良嶽の源皇のまゝ  
 龍善く金の時を  
 待てり龍と成り  
 遠州櫻池に入定  
 しゆ法然上人  
 師恩を報せん  
 つまに龍身と  
 答ふてやう  
 師系共に推化の  
 再来多し凡人  
 とねん痛むる事  
 かんれ



志留波塚  
主人志ろはと  
又



万葉 山名郡支那  
等倍多保美  
志留波乃伊宗等  
雨田乃宇良等  
安比豆之乃良等  
己等母加由波牟

之の浦を流るる  
國みわくちとて  
風積あらん



妙星寺 沓部村あり日蓮宗 觀音山と号し宗祖日蓮上人の父貫名  
名産花筵 沓部の名産 花筵 花筵 花筵

腹川脊川 沓部の東ふあり山面川妻の末ふり小結をくせり  
又腹川村脊川村あり

志乃波磯 藤原郡横洲賀と相良の洞あり白羽村の神前磯の形明神の祠あり  
社説云々神火を出見り豊玉姫玉依姫の三座を安南帝元年十月十五日  
鐘石といふ地遠く東南の隅に大井川小池あり  
源よりありひ出てはわれ馬の香れり村をさそ救く見る里人の七十五回の駒形を  
いひあそび其所の神を駒形明神と申せ被遠江の陣々舟人あり向  
りみいとさるは岩ありの舟あり死ふりて

仲は船の向きもも石波の志乃波小の白ゆふ 真岡

東海道名所圖會卷之三

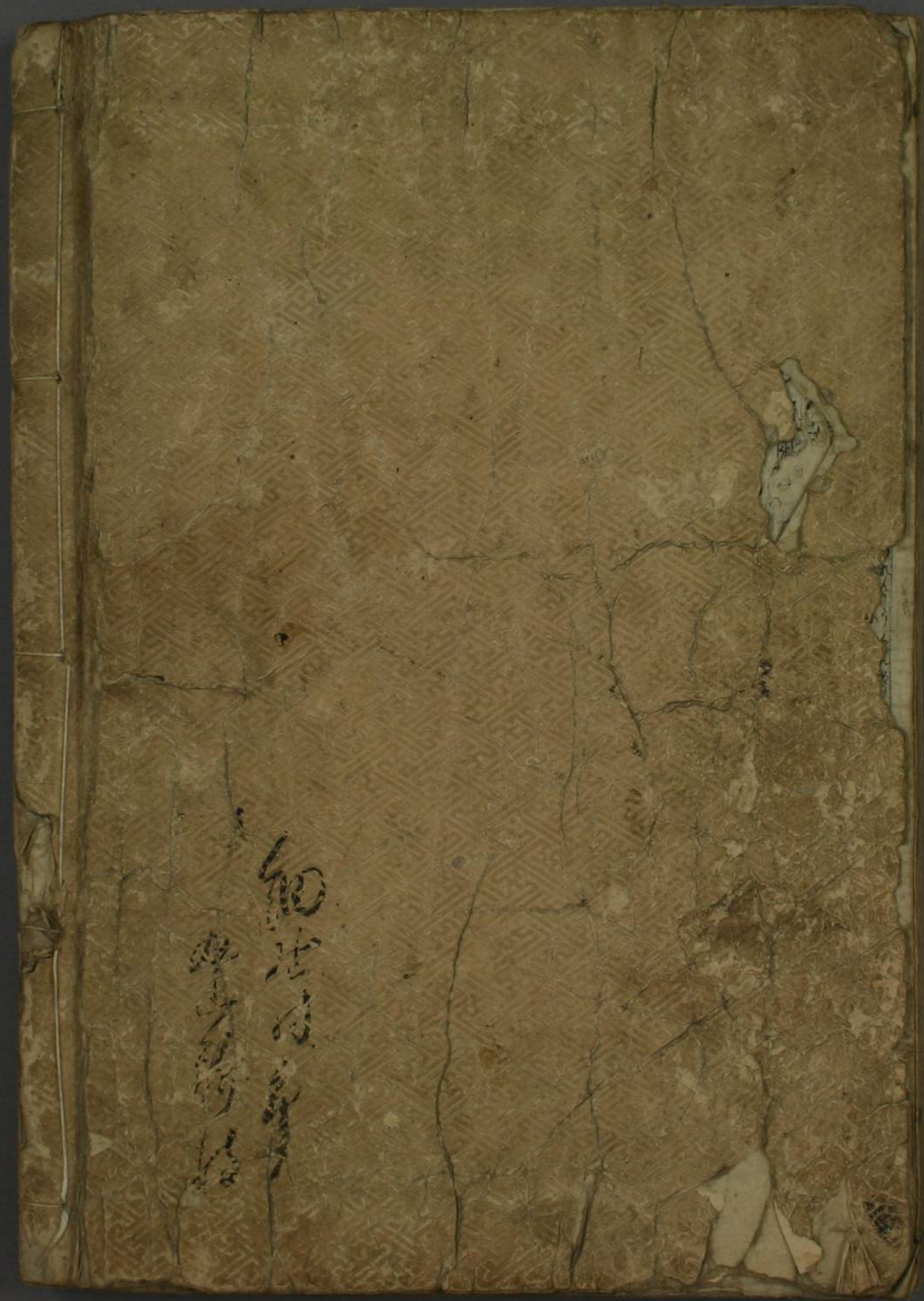
三十八

此本何一方は系河在

一説は後早邊

返可

大山不持



知世錄